



平成 25 年度

川口市児童生徒
学力向上
アイデア実践事例集

第 8 集

川口市児童生徒学力向上推進委員会

平成 26 年 3 月

あいさつ

川口市教育委員会教育長 新海 今朝巳

このたび、平成25年度川口市児童生徒学力向上推進委員会の研究成果として、「川口市児童生徒学力向上アイデア実践事例集」第8集が刊行される運びとなりました。

学習指導要領では、体験的な学習や個に応じた指導を充実させることで基礎的・基本的な知識・技能を習得させることが求められております。また、それらを活用するために記録、説明、論述などの言語活動を充実させて、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことや児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、自主的に学ぶ態度をはぐくむことが求められております。

本市では、「教育に関する3つの達成目標」の検証結果や「埼玉県学習状況調査」「全国学力学習状況調査」の結果等についての分析を重ね、川口市の児童生徒の学力に関する課題を明確にして指導の改善に取り組んでおります。各学校の真摯な取組によって、徐々に成果が表れてきている一方、各校の課題を明確にすることや、学習評価の充実を図ることなど、さらに研究を深めていくことも必要です。

さて、本事例集の発行は、学力向上支援事業の一環として、川口市児童生徒学力向上推進委員会が行う重要な事業の一つとなっております。学力向上推進委員が教科毎に川口市の児童生徒の課題を分析し、課題解決につながる授業の工夫を一年間にわたって研究し、その成果を具体的な実践事例としてまとめたものです。また、本年度は、全教科を通して、小中の円滑な接続の工夫に関する取組も掲載いたしました。ぜひ、各学校において有効に活用していただきたいと思います。

終わりになりますが、本冊子を発行するにあたりご尽力いただきました学力向上推進委員会委員の皆様に対し、深く感謝の意を表するとともに、各学校におきましては、今後とも児童生徒一人一人に確かな学力を身につけさせるために、指導の工夫と改善に努められるようお願い申し上げあいさついたします。

平成26年3月

目 次

あいさつ	川口市教育委員会教育長 新海 今朝巳	1
目 次		2
活用の仕方		4
国 語		
事例 1	発達段階に応じた「身に付けさせたい力」を捉えた指導の工夫 ～「学習用語」「人柄や感情を表す言葉」の系統から迫る「読む力」と「書く力」の向上～	8
事例 2	楽しく学べる言語活動の工夫 ～単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり～	14
事例 3	読みを深める課題設定の工夫 ～読むことで、自らの考えを「もつ」「広げる」「まとめる」～	18
事例 4	系統を踏まえた話し合い活動の工夫 ～話し合い活動を活発にする準備と討論の方法～	22
社 会		
事例 1	地域教材を授業に取り入れよう ～授業に活かす身の回りの地域～	26
事例 2	子どもと一緒に学習問題をつくろう ～問題意識・追究意欲を大切にした学習問題のつくり方～	28
事例 3	小中連携を意識した社会科学習 ～小学校の学習内容を活用し、効率よく授業を進める工夫～	30
事例 4	公民の授業に体験的な活動を取り入れる授業展開の工夫 ～方眼紙一枚から地方自治に対する意識を育てる～	34
算数・数学		
事例 1	小中の系統性を図る ～関数指導のポイント～	38
事例 2	小中の系統性を図る ～中学校への円滑な接続に向けて～	40
事例 3	小中の系統性を図る ～小中の円滑な接続を目指した学習課題の活用～	42
事例 4	小中の系統性を図る ～空間図形の苦手を克服するために～	44
理 科		
事例 1	理科における小中の円滑な接続の工夫 ～ムラサキキャベツ液の活用～	46
事例 2	主体的に学習を進める授業の工夫 ～混合物から純粋な物質を取り出す～	48
事例 3	生徒にとって、スムーズな学びとは 既習内容を活かして深めよう！ ～小中での学習内容の系統性を踏まえた授業～	50
事例 4	理科における小中の円滑な接続の工夫 ～光と力の分野での小中のつながりを考えた指導～	52

外国語活動・外国語

事例 1	児童の「伝えたい」「聞きたい」という思いを大切にしたワークシート活用法 ～コミュニケーションを図る楽しさを体験させるために～	54
事例 2	4 技能を総合的に育成するためのワークシート活用法 ～複数の技能を統合した言語活動を行うために～	56
事例 3	学びの連続性を意識した授業 ～中学校英語担当教師ができる小中連携～	60
事例 4	指導法の継続性を意識した授業 ～チャンツを活用して行うパターン・プラクティス～	64
事例 5	絵本から学ぼう！ ～児童の興味を喚起する教材の活用を通して～	66
事例 6	次への意欲につながる評価 ～評価カードを活用した学習評価の累積から通知表・児童指導要録の総括へ～	68
	バックナンバーもぜひご活用ください	70
	平成 25 年度 川口市児童生徒学力向上推進委員名簿	75

この冊子は、先生方のこんな悩みの解消に役に立ちます。

国語

小学校

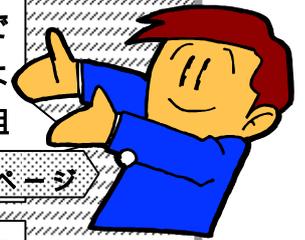


学習用語・人柄や感情を表す言葉の系統 「主語・述語」「要約」「心情」等の学習用語は何年生で学習しますか？「勇ましい」「戸惑う」等の言葉は何年生から使えるようになりますか？ 学年ごとの既習事項が一覧表になっていたら、授業が活性化すると思うのですが……。

8ページへ

言語活動 「たんぽぽのちえ図鑑」や「スイミー日記」を書くことを通して「読む力」を高めるって、どういうことですか？ 「国語科における言語活動」というものが、まだよく分かりません。どのような考えを踏まえて「言語活動」を組み立てればよいのか、具体的に教えてください。

小学校



14ページ

中学校



「読むこと」の課題設定 「星の花が降るころに」や「シカの『落ち穂拾い』」では、どのように課題設定をすればよいですか？ 意欲的に取り組むことができ、「読み」を深めたり、広げたり、自分の考えを形成したりするための課題設定の仕方について教えてください。

18ページ

「話し合い」の系統 日常生活や社会生活に生きる話し合いの力を身に付けさせたいと思います。「司会」のやり方や、「討論」「バズセッション」「パネルディスカッション」等について、どの学年で、どのような指導をすればよいか教えてください。

中学校

22ページ



社会

小学校中・高学年



小学校6年生

地域にあるものを教材化したいと考えています。そのための視点や活用方法を教えてください。また、高学年児童が学習内容を身近に感じられるような地域教材はありませんか？

26ページ

学習問題を教師主導で設定すると児童の意欲が高まらない。児童から出させようとする、なかなか決まらなかったり、学習内容とずれてしまったりします。児童の意欲と学習内容が一致するような学習問題づくりのヒントを教えてください。

28ページ



……この枠で示したものは、小中の円滑な接続の工夫に関する事例です。

中学校 歴史



小学校と中学校の学習内容は重なる部分があり、なかなか小学校の学習を生かせないでいます。小中連携の視点で、生徒の学力を向上させ、かつ効率的に授業をすすめるポイントを教えてください。

30ページ

中学校 公民

公民分野の学習で、なかなか生徒の興味・関心を引き出せないでいます。生徒が活動しながら、具体的に事実をつかんでいくような授業展開や教材開発の方法を教えてください。

34ページ



算数 数学

小学校4年生



算数の第4学年における「伴って変わる2つの数量関係」の単元において高学年や中学校との関連を意識して授業を展開させるためのアイデアはありませんか？

38ページ

小学校6年生

小学校6年生の比例・反比例の単元は児童の意欲を持たせづらいです。これは、基礎・基本が定着していないからなのでしょう。どのような工夫をすれば意欲を持って取り組む授業ができますか？教えてください。また、基礎・基本の定着をさせる工夫についてのアイデアはありませんか？

40ページ



中学校1年生

平成25年度の県学習状況調査の結果において正答率の低い問題の正答率を高めるための手立てとしてどんな授業をすればよいですか？とくに、説明することに焦点をあてた授業づくりのアイデアはありませんか？

42ページ



立体を表現することに関しては扱う授業時間が少なく定着しにくい学習です。空間図形の苦手を克服するためには、どのような工夫すればよいですか？小学校・中学校の学習の内容の系統性も含めて教えてください。

44ページ



小学校4・5年生 中学校1・3年生

理科

小学6年生



水溶液の性質をより身近に感じさせるために、ムラサキキャベツ液を使って実験しようと思います。作り方や使い方について教えてください。小中学校で共通の教材として使えると学びが円滑につながるのですが…。

46ページ



生徒が大好きな観察、実験の授業では、生徒が主体的に学習を進めるため、方法を考えさせたり、選ばせたりすることがあります。そのときの授業の進め方や注意などのポイントを教えてください。

48ページ

中学1年生

中学1年生

「小学校の学習が中学校でどうつながっているのか」が分かっていると、生徒がスムーズに効率よく学習できると思います。既習内容を活かし、中学校で深めながら、科学的な力をさらに育てていくための実践例を紹介してください。

50ページ

小学校と中学校のつながりを知っていると、導入のプレテストなどで既習事項を確認し、そこから中学校の学習へと発展させることができます。小学校3年生と中学校3年生で行う「光」と「力」の分野のつながりを紹介してください。

52ページ

中学1年生



英語

小学校



学年が上がるにつれて、児童はコミュニケーション活動に意欲的に取組まなくなる傾向があります。児童が意欲的にコミュニケーション活動に参加できるワークシートがほしいのですが。

54ページ

中学校

現行の学習指導要領の4つの基本方針の1つに「4技能を総合的に育成する指導を充実する」とありますが、具体的にどのような言語活動に取組ませればよいのか教えてください。

56ページ



中学校

小学校での学習を踏まえて中学校の英語の授業を行うために、今後更に中学校区の小学校と連携を深めていきたいと考えています。効果的な小中連携の実践例を紹介してください。

60ページ

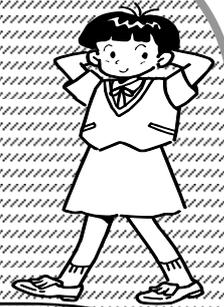


英語

中学校

小中連携のポイントである「指導法の継続性」を意識した授業を行い、生徒が中学校の英語の授業と小学校の外国語活動の授業にギャップを感じずに、楽しく英語を学べる実践例を紹介してください。

64ページ



小学校6年生

クラスに外国語活動に対して苦手意識をもっている児童が数名います。クラスのみんなを意欲的に学習活動に参加させたいと思っているのですが、児童の学習意欲を喚起する教材にはどのようなものがありますか？

66ページ

小学校5年生

授業の最後に評価カードを活用して児童に自己評価をさせていますが、児童1人ひとりにどのような力がついたのか伝えたり、次への意欲につながるような評価をしたいのですが、どのような質問項目を設ければよいのか教えてください。

68ページ



発達段階に応じた「身に付けさせたい力」を捉えた指導の工夫

～サブテーマ～

「学習用語」「人柄や感情を表す言葉」の系統から迫る「読む力」と「書く力」の向上



川口市立鳩ヶ谷小学校 教諭 池田 仁美

ねらい

小学校学習指導要領解説には、2学年ごとに目標と内容（指導事項・言語活動例）が示されている。「読むこと」を指導する際、担当学年の目標と内容を確認すると同時に、既習事項や次学年へのつながりまで見通すことができているだろうか。国語も算数のように、積み重ねがあり、既習を生かしつつ新しいことを学んだり、繰り返し指導することにより習得が期待できたりする。

そこで、各学年で身に付けさせたい力を明確にし、小学校6年間を見通せるようにまとめることで、「読むこと」の指導を通して、子供たちに読みの力をつけることができると考えた。

また、平成25年度「全国学力・学習状況調査」や「埼玉県小学校学習状況調査」の結果からは、「相手や目的に応じて、理由や事例を挙げて書くことができる」ことを確認する問題において、「書くこと」に課題が見られる。

そこで、自分の考えや気持ちを書く様々な場面で使える「言葉一覧表」を作成し、それを活用することで、子供たちがこれまで以上に意欲的に書く活動を行い、自分の気持ちを的確に表現することができるように考えた。

実践例

(1)「読むこと」について 既習の学び

前学年までに、何を学び、何を習得しているかについては、担当学年の学習を見るだけでは気付けない。

そこで、「読むことの発達段階における系統（資料1）」、「児童が出合う読むことにおける学習用語の系統（資料2）」を一覧表にし、教師が前学年までの学びを知ることができるようにした。さらに、必要に応じて教室に掲示したり、プリントとして児童に配付したりすることで、語彙の定着を図った。

「読むこと」における学習用語掲示物

<p>おぼえているかな？</p> <p>登場人物 物語に出てくる人物</p> <p>場面 人物のすること、周りの様子が一歩とまりになっている部分</p> <p>段落 文章を組み立てているまとまり</p> <p>引用 本に書かれていることを文章や話の中で用いること</p> <p>小見出し 文章をいくつかに分けて内容のまとまりごとにつける題</p>	<p>例 2年生まとめ ～3年生</p>	<p>覚えているかな？</p> <p>作者 物語や詩を書いた人</p> <p>筆者 科学誌や物語を書いた人</p> <p>地の文 会話文以外の文</p> <p>語り手 地の文を読む人、ナレーター どうしてかある。</p> <p>要約 目的や要約に応じて、話や本、文章の内容を短くまとめること。1元を生かす方法、2自分の言葉でまとめる方法がある。</p>
<p>おぼえているかな？</p> <p>作者 話を作った人</p> <p>会話 人物が話した言葉</p> <p>主語 だれか（は）、何か（は）</p> <p>じゆつ語 どうした（どうする）</p> <p>あらすじ 人物がしたことや出来事を中心に話を短くまとめたもの</p>	<p>例 3年生まとめ ～4年生</p>	
<p>おぼえているかな？</p> <p>作者 物語や詩を書いた人</p> <p>筆者 科学誌や物語を書いた人</p> <p>地の文 会話文以外の文</p> <p>語り手 地の文を読む人、ナレーター どうしてかある。</p> <p>要約 目的や要約に応じて、話や本、文章の内容を短くまとめること。1元を生かす方法、2自分の言葉でまとめる方法がある。</p>	<p>例 4年生まとめ ～5年生</p>	

【資料1：学習指導要領解説「読むこと」キーワード系統表】

	低学年	中学年	高学年
目標	書かれている 事柄の順序 や 場面の様子 などに気付いたり、 想像を広げたり しながら読む能力を身に付けさせるとともに、 楽しんで読書 しようとする態度を育てる。	目的に応じ、 内容の中心 をとらえたり 段落相互の関係 を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、 幅広く読書 しようとする態度を育てる。	目的に応じ、 内容や要旨 をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して 考えを広げたり深めたり しようとする態度を育てる。
指導事項キーワード			
音読	語のまとまり 言葉の響き	内容の中心 場面の様子	自分の思いや考え (音読・朗読)
読み方 効果的な	/		比べて読む
文章の解釈 説明的な	時間的な順序 事柄の順序	段落相互の関係 事実と意見との関係	要旨 事実と感想、意見 自分の考えを明確に
文章の解釈 文学的な	場面の様子 登場人物の行動 大事な言葉や文	場面の移り変わり 登場人物の性格や気持ちの変化、情景(叙述を基に)	登場人物の相互関係 心情、場面についての描写 優れた叙述(自分の考え)
形成及び交流 自分の考えの	文章の内容と自分の経験	文章の要点や細かい点 文章などを引用、要約 文章を読んで考えたこと 一人一人の感じ方の違い	本や文章を読んで考えたこと 自分の考えを広げる、深める
じた読書 目的に応じた	楽しむ 知識を得る	目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで......	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて.....
言語活動例	<ul style="list-style-type: none"> ・本や文章を楽しむ ・想像を広げながら読む ・物語の読み聞かせ ・物語を演じる ・説明文を読む ・感想を書く ・読んだ本について好きなどころを紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語や詩を読み、感想を述べ合う ・記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用する ・紹介したい本を説明する ・必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章を読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝記を読み、自分の生き方について考える ・自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する ・編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読む ・本を読んで推薦の文章を書く

【資料2：児童が出合う「読むこと」における学習用語の系統表】

低学年	中学年	高学年
<p>[1年生]</p> <p>「くじらぐも」 だいたい さくしゃ(話を作った人) 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 やくず(外国語の文章を日本語の文章に直すこと) やくしゃ(訳した人)</p> <p>[2年生]</p> <p>「ふきのとう」 じんぶつ(話の中に出てくる人。人間のように動いたり考えたりする生き物や物も人物) 「お話のさくしゃになろう」 会話(人物が話した言葉) 「主語と述語」 主語(「誰が(は)」、「何が(は)」に当たる言葉) 述語(「どうした(どうする)」に当たる言葉) 「スーホの白い馬」 あらすじ(人物がしたことや出来事を中心に、お話を短くまとめたもの)</p>	<p>[3年生]</p> <p>「きつつきの商売」 場面(物語の中で人物のすることや周りの様子が一まとまりになっている部分) 登場人物(物語の場面に出てくる人物) 「イルカのねむり方」 段落(文章を組み立てているまとまり。始めを一字下げて表す) 問いと答え 「海をかつとばせ」 筆者(文章を書いた人。物語や詩等を書いた人を作者、科学読み物等を書いた人を筆者ともいう) 「本は友だち」 引用(本に書かれていることを文章や話の中で用いること) 修飾語(「だれに」「何を」に当たる言葉) 「三年とうげ」 民話(人々の中から生まれ、語り伝えられてきた話) 「かるた」 小見出し(文章を幾つかに分けて内容のまとまりごとにつける題) こそあど言葉(これ・それ・あれ・どれなど物事や場所、方向などを指します言葉) 会話文と地の文(かぎ「」で示している人物の言葉が会話文。他は地の文。地の文を語る人を語り手(ナレーター)ということがある)</p> <p>[4年生]</p> <p>「白いぼうし」 場面、人物、あらすじ 「大きな力を出す」 「動いて、考えて、また動く」 事実、事例、説明、筆者、段落 「三つのお願い」 引用、語り手、地の文 「ウナギのなぞを追って」 要約(目的や必要に応じて、話や本、文章の内容を短くまとめること。元の文章の構成や表現をそのまま生かして短くまとめるものと、自分の言葉で短くまとめるものがある)</p>	<p>[5年生]</p> <p>「見立てる」「生き物は円柱形」 要旨(筆者が文章で取り上げている内容の中心となる事から、あるいは、それについての筆者の考えの中心となる事から) 「百年後のふるさとを守る」 伝記(実在の人物の人生をえがいた読み物) 「大造じいさんとガン」 朗読(物語や詩などの作品について、自分なりに考えたことや感じたことを大切に、それを音読に反映させて読むこと) 心情(人物が感じたり、思ったり、考えたりしたこと) 情景(物語で、登場人物の心情と響き合い、一体のものとなった風景や様子)</p> <p>[6年生]</p> <p>「カレーライス」 心情 「感情」「生き物はつながりの中に」 事実、理由、根拠 「伝えられてきたもの」 狂言(室町時代に行われるようになった演劇。せりふやしぐさを主とし、能舞台の上で演じられる) 「やまなし」 情景</p>

例 5年生まとめ
～6年生



《参考》『国語』光村図書1～6年生、『小学生の国語 学びを広げる』三省堂2～6年生
 『小学校国語』学校図書4～6年生

楽しく学べる言語活動の工夫

～サブテーマ～

単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくり

川口市立新郷小学校 教諭 平野 裕子



ねらい

教材文を通して指導事項を指導する際に、児童が指導内容を理解し、活用する力を身に付けられるようにする必要がある。その手立てとして、学習指導要領第1章総則に、「思考力、判断力、表現力等を身に付けるために言語活動の充実を図っていくこと」が示されている。例えば、「図鑑を作ろう」という言語活動を設定することで、図鑑に書く内容を児童が自ら教材文から読み取り、読み取ったことを図鑑という形でまとめていく。この活動を通して、必要なことを読み取り、読み取ったことを表現する力、つまり思考力、判断力、表現力を身に付けていく。また、単に教材文を読み取るのではなく、「図鑑を作ろう」とすることで、児童は目的意識をもち、また意欲的に取り組めるようになると考える。そこで、児童が楽しみながら思考力、判断力、表現力等を育成するためには、どんな言語活動を設ければよいのか、また、教材文との関連を図った授業をどのように展開すればよいのか等について研究することとした。

実践例

(1) 言語活動を位置付けた単元計画の作成例

単元を貫いて言語活動を設定するためには、学習指導要領の指導事項や教材文の特徴に合った言語活動を設定していく必要がある。

指導内容の明確化 学習指導要領の指導事項をもとに、教材文の特徴を考慮しながら本単元で何を指導するかを明確にする。	教材文	2年生 読んで分かったことをまとめよう 「たんぼぼのちえ」
	学習指導要領 指導事項	〔C読むこと〕 イ時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。オ文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
	指導内容	順序を表す言葉や理由を表す言葉に着目し、たんぼぼの「様子」とその「わけ」を読み取る。 たんぼぼのちえを知って、考えたことや感じたことをまとめ、発表する。
言語活動の決定 指導内容を指導するにあたって、どんな言語活動を設定するか決める。	単元を貫く言語活動	工物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書く。 たんぼぼのちえ図鑑を書こう
単元計画の立案 言語活動をするために教材文で何を読み取るかを明確にするなど、言語活動と教材文の読み取りとの関連を図りながら計画を立てる。	指導計画	1 単元を貫く言語活動の把握 たんぼぼのちえを調べて、図鑑を書こう 2 教材文の読み取り。 たんぼぼの様子 わけ 3 たんぼぼ図鑑を書く。 4 自分の書いた図鑑を友達と交流する。
		並行読書 植物について書かれた本

言語活動例

低学年	クイズ、図鑑、観察記録、作り方の説明、日記、音読発表、紹介文、手紙、感想文
中学年	報告書、説明文、日記、紹介文、手紙、感想文
高学年	意見文、新聞、紹介文、朗読発表、手紙、感想文、推薦文

(2) 1時間の授業展開例

単元を貫く言語活動というのは、単に単元のまとめとして言語活動を行うのではなく、1時間ごとの授業と関連付けていくことが必要である。例えば、1時間ごとに言語活動を行う、あるいは、1時間ごとの授業で単元末の言語活動に結び付くような活動を行うなどである。いずれにしても、1時間の授業の中に、言語活動を設ける必要があると考える。

授業展開（例「たんぼぼのちえ」8 / 13時）

1時間の授業を「課題把握」「音読」「読み取り」「読み深め」「読み深めたことでのまとめ（言語活動）」「交流」という流れで展開する。

	学習活動	学習内容
課題把握・音読 課題を把握した上で音読をすることで、課題の答えを見付けながら音読するという意識をもたせる。	1 課題の把握	たんぼぼのちえを見つけ、 たんぼぼのちえずかんを書こう
	2 音読	音読の工夫
読み取り 読み取りの視点を提示し、本文の大体の内容をつかませる。	3 読み取り	読み取りの視点 事実 たんぼぼの様子（いつ・なにが・どうなる） 理由 わけ（どうしてかというところからです。）
読み深め 読み深めさせたいことを提示し、読み深めるための工夫をしながら、それについて考えさせる。	4 読み深め	読み深めるための工夫 たんぼぼの様子が変化するわけ（ちえ）を動作化、 実物提示、挿し絵、発問などで読み深める。
言語活動 読み深めたことについて、書く、話し合うなどの言語活動を通して各自まとめさせる。	5 言語活動	言語活動の工夫 たんぼぼの様子が変化するわけ（ちえ）を知って、 思ったことなどを書く。単元末の言語活動では、それらをお家の人に知らせたいこととして書く。
交流 各自まとめたものを友達と交流し、互いのよさを認め合い、活動してよかったという満足感をもたせる。	6 交流	交流の工夫 交流の観点 他の友だちにも紹介したいこと グループ 隣同士

音読の工夫

- ・目的意識を持って、全員が声を出して読む場面を設ける。
- ・読み方 一斉読み、連れ読み
- ・指導事項 姿勢や口形、声の大きさ、速さ、語や文のまとまり（「、」「。」「」）



連れ読み

「今日は、ぼくが先生役だ。大きな声でしっかり読むぞ！」

読み取りの視点の提示

- ・自力で読み取るための視点を提示する。
- ・物語文の視点 「いつ、どこで、だれが、どうする。(どうなった。)」
- ・説明文の視点 「何が、どうして、どうなった。筆者の考え。」
「問いかけ 答え」
「事実 理由 結論 筆者の考え」

読み取りの視点

「この挿絵のたんぼぼは、いつ、なにが、どうなったの？」



読み深めるための工夫

- ・読み取ったことをもとに登場人物の気持ちなどを読み深めるための工夫を行う。
- ・工夫 動作化、挿し絵、実物提示、発問の工夫

挿し絵



「たおれていたたんぼぼのじくは、つぎにおき上がるんだよ。」

動作化



「たおれているとらくだなあ。どうしてわざわざおき上がるのだろう？」

実物提示



「これは、学校の庭に咲いていたたんぼぼです。わた毛ができたじくをのばすと、こんなに高くなっているよ。どうしてだろう？」

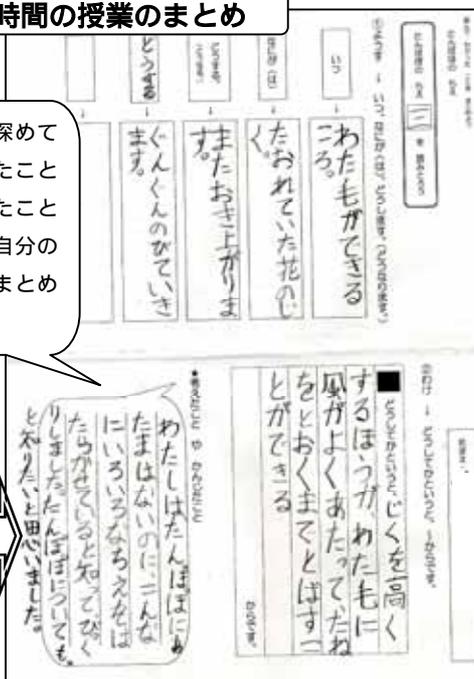
言語活動の工夫

- ・1時間の授業における言語活動が、単元の言語活動と関連するように工夫する。
- ・例 場面ごとに日記、感想、意見文を書く。

1時間の授業のまとめ

読み深めて気づいたことや感じたことなどを自分の言葉でまとめる。

評価場面



単元のまとめとしての図鑑

授業で読み深めたことをもとに、お家人に知らせたいことを書く。

授業で読み取ったことをもとに、大体的内容を書く。



交流の工夫

- ・交流の観点の明確化やグループづくりの工夫を行う。

低学年 隣同士、よいところ

中学年 3～4人、感想とその理由

高学年 3～4人、自分の意見

他の友達にも知らせたい感想



「なぜ、せを高くするのかなあとさいしょは思いました。でも、ほかの花や草と同じ高さだと風があたらないからのびているんだと思いました。」

(3) 物語文の実践例「スイミー日記を書こう」

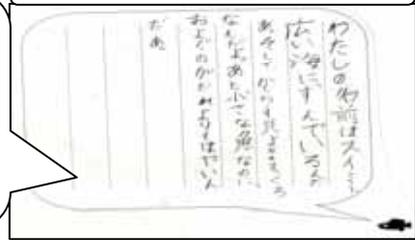
「お話を読んで、かんそうを書こうスイミー」の学習では、単元を貫く言語活動を「日記を書く」とし、学習を進めた。本文は、五場面に分れており、場面ごとに「何が、どうした。」という視点で読み取りを行い、スイミーのその時の気持ちについて読み深めを行った。そして、読み深めたことをもとに、スイミーになりきって日記を書く活動を行った。物語文では、第一場面に登場人物についての説明が書かれている場合が多く、第一場面は、自己紹介文を書くことにした。

スイミー日記の表紙



第一場面では、「どこで、だれが、どうした。(どんな。)」の読み取りの視点とともに、得意なことや特徴などを読み取らせた。

第一場面 自己紹介文を書く



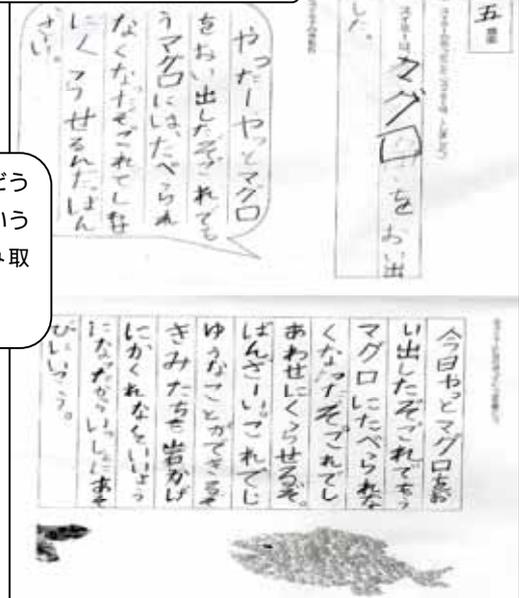
第二場面の日記



この場面で、スイミーはどんな気持ちになったか。

スイミーになりきって日記を書く。

第五場面の日記



「何が、どうする。」という視点で読み取りを行う。

まとめ

単元を貫く言語活動を位置付けた授業を行ったことで、児童は「この学習では図鑑をつくるのだな。」などに見通しを明確に捉え、目的意識を持って学習を進めることができた。その際、児童の興味がもてるような言語活動を設定したことで、主体的に楽しく活動することができた。また、読み取りの視点を提示したことで、ほとんどの児童が教材文の大体の内容をつかむことができ、動作化や実物提示などをもとに読み深めを行ったことで、登場人物の気持ちを想像したり、書かれている内容について実感を持って感じとったりすることができた。今後も、児童が主体的に楽しく学習を進めていけるように、教材文の特徴や児童の興味に合った言語活動を工夫していきたいと考える。

読みを深める課題設定の工夫

～サブテーマ～

読むことで、自らの考えを
「もつ」「広げる」「まとめる」

川口市立安行中学校 教諭 鈴木 玲



ねらい

国語の授業で培うべき力は「適切に表現する力」と「正確に理解する力」である。そして、国語で表現された内容や事柄を「正確に理解する」ことは思考力や想像力を養い、新たな発想や思考を創造することへと発展してゆく。

「正確に理解する力」はよく聞き、よく読むことで養われると考え、小・中の系統的な学習活動の中で、読み深めるための課題設定を多方面から試みた。

【参考】 各学年における「C読むこと」の指導事項

小学校				中学校			
	第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年		第1学年	第2学年	第3学年
関説 す明 的指 な導 文事 章項 の解 釈に	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。	文章の解釈に関する指導事項	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり、要旨をとらえたりすること。	文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。	文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。
関文 学的 な指 導文 章項 の解 釈に	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。		場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。		
関自 分の 指考 導え 事項 の形 成及 び交 流に	文章中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。	目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	本や文章を読んだ考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。		自 分 の 考 え の 形 成 に 関 する	文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の考え方を広げること。	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。

実践例

(1) タイトルについて考える

それぞれの作品のタイトルをつけた筆者の意図を考え、その意味を本文中に見出そうとすることで細部に注意しながら読むことをねらいとした。

活動の初めに (例) 「江戸からのメッセージ」【随筆】(指導案 部分抜粋)

学習内容	学習活動	指導と評価の創意工夫
1. 題名からの考察	<p>文章の中心的部分を読み取る</p> <p>どんな「メッセージ」かを考える 「心の豊かさ」(結論部から)</p> <p>(補助発問)「心の豊かさ」とは? 「物を大切にすること。」</p>	ワークシート 発表内容

活動の終わりに (例) 「大人になれなかった弟たちに……」【物語】

学習内容	学習活動	指導と評価の創意工夫
3. 題名についての考察	<p>「弟たちに……」に続く言葉を考える</p> <p>(補助発問)なぜ「弟たち(複数)」なのだろうか? 戦争で亡くなった多くの子供たちを表す</p> <p>予想される生徒の反応 ・弟たちに『平和を誓う』 ・弟たちに『謝りたい』 等</p>	ワークシート 読み取った内容をもとに自由イメージさせる。

(2) 結論から課題を設定する

敢えて全文を通読せず、結論部分から文章の中心的内容を示すキーセンテンスを抽出し、教師が提示した課題について解決することを目標とした読みをおこなった。

論理的に組み立てられた文章を意図的に分解することで、課題に取り組もうとする生徒の意欲が高まるとともに詳細な理解につなげることができた。

(例) 「シカの『落ち穂拾い』」【記録】

結論 (本文より)

一連の調査によって、この二種の動物が「つながり」をもって暮らしていることがわかってきた。私は今回の調査を通して、同じ場所に暮らす生き物どうしの「結び付き」の複雑さ、そしておもしろさの一端を、かいま見たように感じている。

『つながり』や『生き物どうしの結び付き』とありますが、どんな『つながり』、どんな『結び付き』なのでしょう？

教師側から課題を提示

読み進めながら生徒の声があがってきた

「つながり」って「シカがサルの落とした葉や花を食べる」ってこと？

それって、サルがシカを助けてる...みたいなことが書いてあるよ。

シカのえさがない季節にその行動が見られるって書いてあるよ。

助けるって？

(3) 感想や登場人物の印象をくり返し確かめる

物語文の指導の際、1枚のワークシートに継続的に登場人物に対する印象を記す欄を設け、毎時間の終わりにワークシートに書かせることによって、自身の感想や考え方の変化をとらえ、登場人物の言動に注目しながら、その言動の起因となる心情を考えながら読むことをねらいとした。

(例) 「星の花が降るころに」【物語】

課題に対する生徒の答え

		主人公「私」はどんな人物か	「戸部君」はどんな人物か
授業の経過	初発の感想	弱い子 泣き虫 意地っぱり	軽い感じ 幼い
	授業を進めながら	本当はわがまま？ 自分が嫌い？ 自分が好き？	意外にまじめ？ 主人公に恋してる？
	教材終了後	素直 前向き	周りのことをちゃんと考えている 優しい

(4) 「文字以外」を読む

文学的文章の中の「（ダッシュ）」や「……」など言葉で書き表されていない部分について考えることで、前後の文の内容をとらえようとしたり、表現から得られる世界観を広げようとしながら読むことをねらいとした。

(例) 「おれも眠らう」【詩】

「おれも眠らう」

りるるりるるりるりるりるりるりるり
りるるりるるりるりるりるりるりるり
りりりりりりりりりりりりりりりり

「課題」
「……」にこめられた主人公の心情を考えよう

「課題」
「るるり」「りりり」を人間の会話文に変換してみよう

「課題」
意味を考えよう
「（ダッシュ）」の

あの時、僕がヒロユキのミルクを飲んでしまったからだ。僕が弟を死なせたのかもしれない。

課題に対する生徒の答え

こんなにちっちゃいヒロユキの命を奪った戦争がにくい！

題名から考えると「眠った」という意味かもしれない。

何も聞こえなくなったってこと？

(例) 「大人になれなかった弟たちに……」【物語】

泣きもせず、弟は静かに息をひきとりました。母と僕に見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

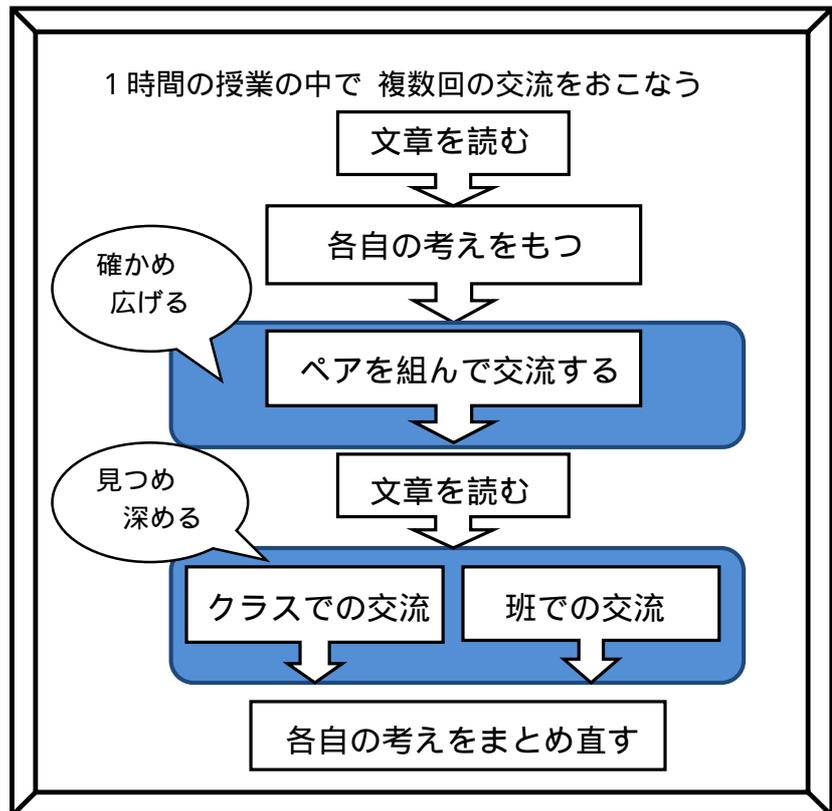
(5) 意見交流を複数回おこなう

文章を読んだあと、自分の考えをさらに広げたり、深めたりするために意見交流の場を活用したいと考えた。

1つ目の交流では自分の考えを確かめ、広げていく場として、2つ目の交流ではその考えを見つめ直し、深めていくことをねらいとした。

「雪とパイナップル」

【物語】の学習の際に『読書』と『交流』を複数回くり返しおこなったが、初めの交流で「看護師のヤヨイさん」優しさのみ目を向けていた生徒が、周囲の人や亡くなった少年の家族にも優しさを見出す変化が見られた。



(6) 教師の言葉かけを工夫する

課題設定とは異なるが、教師による声かけや発問のしかたに明確な意図を持たせることで読み取った内容から生徒の思考を深めたり、生徒相互の交流をより活発なものにすることができると考えられる。

以下、文献を参考にしながら日頃実践している声かけの例を挙げる。

教師の声かけ・発問の例

目的	種類	声かけの例
認める	生徒の発言を肯定的に受容する	うん、それで。 ああ、なるほど。 そうだよな。
確かめる	生徒の発言の一部をくり返す	なるほど、～なんだ。 そう、～だ。
	生徒の発言を別の言い方に言いかえる	ということは～ということですね。 それは言いかえると～だね。
	生徒の発言に補足して言う	今の意見は～ということだよな。 それは～ということでもあるのかな？
広げる	他の生徒の発言を促す (同意見で広げる)	他に、同じ考えの人は？ 「考えが似ている」という人はいますか？ もう少し詳しく言える人はいますか？ 今の意見に補足できる人。
	比較して違う考えの発言を促す	他に「ちょっと違う」という人はいますか？ 違う意見の人は？
深める	同じ生徒に続けて発言することを促す	もう少し詳しく話してください。 それはどうして～なんだろう？
	生徒の考えを整理してまとめる	それは～ということですか？ さんはつまり～と考えたんだね。

(参考) 三瀬村立三瀬小学校 廣瀧 由紀子 教諭 『思いを豊かに伝え合い、読みを深める指導方法の研究』
www.saga-ed.jp/chouken/choukikensyuu.../01hirotaki.pdf

まとめ

今回の実践を通し、「読む」ためにはまず「何について読むのか？」を明確にすることが重要であると感じた。そのことによって、生徒たちは文章中の多くの言葉の中から自身が必要とする内容や語句を見つけ出そうとし、文章をくり返し読んだ。また、自分の考えをくり返し確認したり、生徒同士で交流する機会をより多く設けることで読み深めることにつながった。

今後は発想を広げ、思考を深めるために、自ら進んで読書活動に取り組む生徒を育てていきたい。

系統を踏まえた話し合い活動の工夫

～サブテーマ～

話し合い活動を活発にする

準備と討論の方法

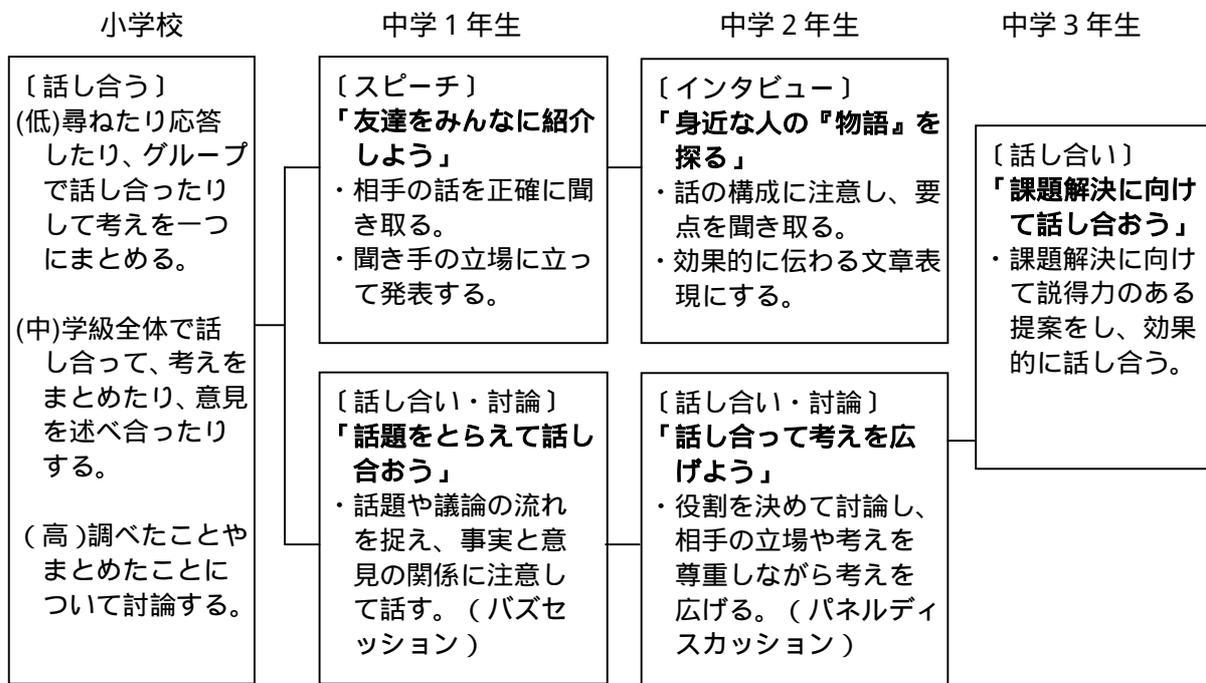
川口市立在家中学校 教諭 高橋千恵美



ねらい

小学校では、学級活動や国語の授業の中で活発に意見交換や討論をしてきている。しかし、中学校の授業の中では、あまり活発な意見交換の様子が見られない。そこで、中学校の国語科の学習における討論の準備や方法を分析し、小学校で培ってきた学習活動をさらに深めたいと考える。

【『話し合う』学習の系統】



実践例

(1)小学校と中学校の話し合いの仕方の比較・分析

小学校の5年生の『きいて、きいて、きいてみよう』(話す・聞く)では、互いによりよく理解し合うためのインタビュー活動を役割分担することによって学習する。また、『豊かな言葉の使い手になるためには』(話す・聞く)では、「集めた情報を整理し、関連づけて、自分の考えをまとめる」(書く)ことによって「考え方の相違を見つけ討論する」(話す・聞く)活動に繋げている。また、6年生の『学級討論会をしよう』では、相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝える学習活動を行う。



これらの学習を踏まえて、中学1年生では『話題をとらえて話し合おう』(話す・聞く)で4～6のグループに別れてバズセッションをする。小学校と違うのは、日常生活の中から自分たちで課題を見つけ出し、考えを深めるために意見の根拠と問題点を整理して討論するところである。さらにそこから解決策を探すところまで話し合いを進める。

小学校「話し合うこと（協議）」の言語活動と指導事項

<p>2年下 P85 すすんで考えを出し合おう 「みんなできめよう」</p>	<p>3年上 P108 話し合って決めよう 「わたしたちの学校行事」</p>	<p>4年上 P30 話し合いの仕方について考えよう 「よりよい学級会をしよう」</p>
<p>【言語活動】（言語活動例イ） ・議題を決めて、グループで話し合いをする。</p>	<p>【言語活動】（言語活動例ア・イ） ・説明したい学校行事を選び、グループごとに発表をする。</p>	<p>【言語活動】（言語活動例イ） ・議題を決めて、学級会を行う。</p>
<p>【指導事項】 ・集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。</p>	<p>【指導事項】 ・互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。</p>	<p>【指導事項】 ・司会者や提案者などの役割を理解し、目的に向かって互いの考えや共通点を考えながら話し合う。</p>
<p>司会をするときは 話し合いの最初に、これから何を話し合うのか確認する。話し合いの最後に、決まったことを確認する。</p> <p>話し合いを行うときは 考えたことを進んで話す。 ・詳しく知りたいことについて質問する。 ・理由とともに発言する。話している人を見て聞く。最後まで聞いてから話す。聞かれたことに答える。</p>	<p>司会をするときは 何について話し合うかということ、話し合いの手順を決める。発言者を指名したり、話し合いの順番を決めたりする。ときどき、それまでに出了意見を整理する。持ち時間などの約束を思い出してもらおう。</p> <p>話し合いを行うときは 司会に指名されてから話す。自分の考えを先に言う。考えた理由を言う。友だちの意見と同じところ、違うところをはっきりさせて、意見を言う。賛成・反対・つけ足し</p>	<p>司会をするときは <司会グループが気を付けること> 予定どおりに進めるには...司会グループが進行計画を立てておく「議題」「提案者」「進め方」「時間配分」 意見が出るようにするためには...考えをノートに書く時間をとる。グループの中で意見を出し合う。議題に沿って話し合いを進めるには...司会が途中でまとめたり、黒板に意見を整理したりする。まとめるには...どんな意見がでたかを整理し、決まったことを、確かめる。</p>

小学校「話し合うこと（協議）」の言語活動と指導事項

<p>5年 P91 自分の考えをまとめて、討論しよう 「豊かな言葉の使い手になるためには」</p>	<p>6年 P43 相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう 「学級討論会をしよう」</p>
<p>【言語活動】（言語活動例イ） ・「豊かな言葉の使い手になるためには、どうすればよいか」という話題でグループ討論をする。</p>	<p>【言語活動】（言語活動例イ） ・「肯定のグループ」「否定のグループ」「討論を聞くグループ」に分かれ、話題を決めて学級討論会を行う</p>
<p>【指導事項】 ・収集した知識や情報を関連づけ、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。</p>	<p>【指導事項】 ・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめ、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。</p>
<p>討論の進め方 1 司会を決める。 2 討論の話題を確認し、一人ずつ自分の考えを発表する。 3 たがいの考えについて質問したりそれに答えたりする。 4 互いの考えについて意見をかわす。 5 最後に、司会が、どのような意見が出たかをまとめる。</p> <p>討論を行うときは 意見を先に、理由を後に話す。疑問や反論を分かりやすく伝える。自分の立場を明確にして話す。 (司会者は複数の考えの似ているところと違うところを明確にしながらか話を進める。)</p>	<p>討論を行うときは 議論の筋道に沿って発言する。説得力のある話し方を工夫する。 ・意見を先に、理由を後に話す。 ・体験や具体例を入れて話す。 相手の主張や、質問に対する答えをよく聞き、それを踏まえて発言する。 互いの立場の、一番の違いは何かを考えながら聞く。</p>

中学校「話し合うこと（討論）」の言語活動と指導事項

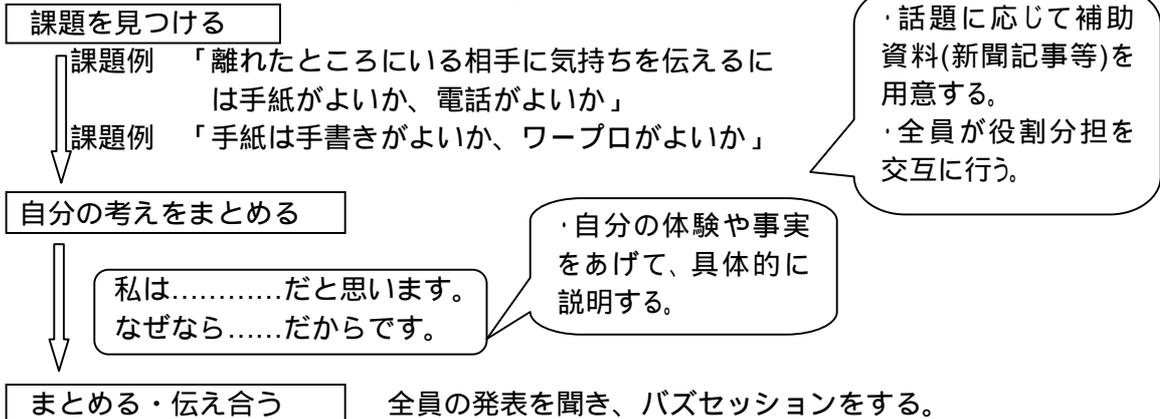
1年 p154	2年 P156	3年 P166
バズセッションをしよう 「話題をとらえて話し合おう」	パネルディスカッションをする 「話し合って考えを広げよう」	社会への提案をまとめる 「課題解決に向けて話し合おう」
【言語活動】（言語活動例イ） ・話題を決めてバズセッションをする。	【言語活動】（言語活動例イ） ・テーマを決めてパネルディスカッションをする。	【言語活動】（言語活動例イ） ・テーマを決め、グループ会議、全体会議を行い決定する。
<p>【指導事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題や議論の流れを的確にとらえて話し合う。 ・事実と意見の関係に注視し、相手の反応を踏まえながら話す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>効果的な話し合いにするために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見と根拠（意見を支える事実や体験）、よい点と問題点を事前に整理しておく。 ・「意見」「根拠」「よい点」「問題点」「解決策」など、議論の内容を踏まえて書く。 ・相手の反応を踏まえながら、説明を補ったり、違う言葉に言い換えたりする。 ・意見が対立したり、考えが行き詰まったりしたときは、話し合いの目的に戻って考える。 </div>	<p>【指導事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討しながら自分の考えを広げる。 ・司会や提案者などの役割を決め、目的に沿って討論する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>パネルディスカッションの注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネリストは自分の意見と根拠を端的に示し、他の立場や意見との違いを明確にする。 ・司会は、それぞれの意見を公平に聞き取り、共通点と相違点、長所と問題点を整理して示す。また、全体討論ではできるだけ多くの人に発言の機会を与える。 ・フロアはパネリストの意見と根拠を、自分の考えと比較しながら聞くようにする。発言の際は、誰の意見のどの部分に対するものかを明確にする。 </div>	<p>【指導事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な課題について説得力のある提案をし、意見を調整し合いながら共同宣言をまとめる。 ・話し合いが効果的に展開するように進行を工夫し、課題の解決に向けて考えを生かし合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題解決を目ざす話し合いのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために必要なことは何かを考え、議論を効果的に深められる形式や人数を設定する。 ・提案や発言のときは、簡潔に要点を述べる。信頼性のある根拠とともに筋道を立てて話し、相手を説得する。 ・話し合いの中で出た意見の共通点や相違点を整理し、長所を生かしてよりよい結論にまとめる。 </div>

【実践】「『ことば』をテーマとした話し合いをしよう」（1年生）

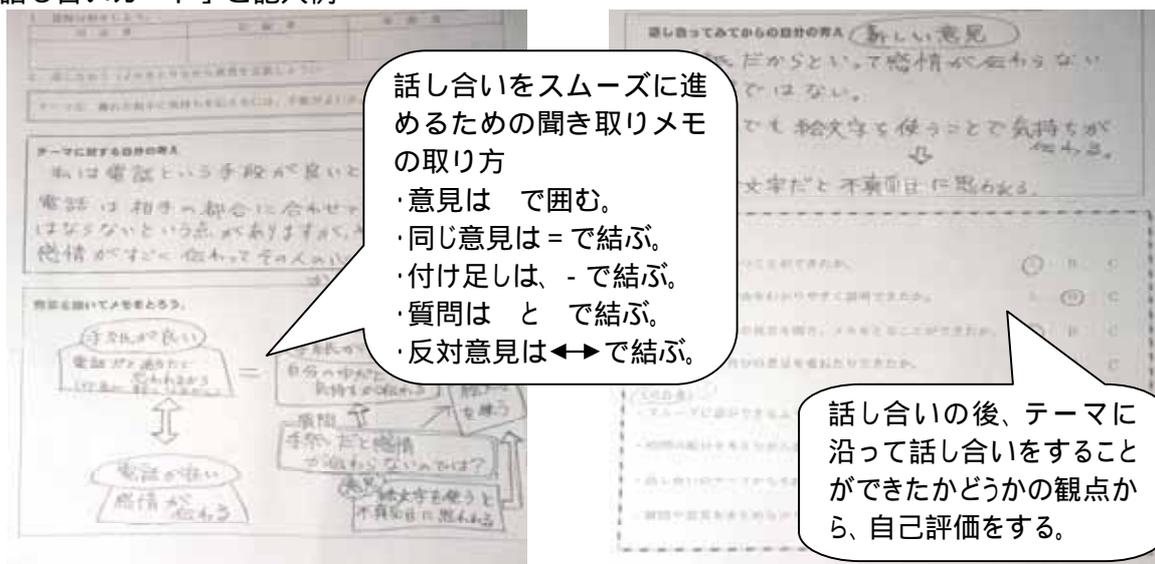
< 1 > これまでの学習を生かそう。

小学校の既習の学習を確認する。話し合いの進め方・役割分担・メモの取り方

< 2 > 身近な話題を選び、話し合いをする。



「話し合いカード」と記入例



(2) 討論を深めるための準備と話し方

ディベートもパネルディスカッションも共に討論している人とは別に聴衆がいる。そのため聴衆を共感させたり納得させたりするための情報収集や原稿作成が重要になってくる。議題によっては事前にとったアンケートを用いたり書籍や新聞記事などを引用し詳しい情報提供をしたりすることにより、聴衆に親近感や臨場感を持たせる必要が出てくる。

また、話し方も大切であり、相手の立場を尊重しながらどのような言い方をすれば説得できるかを考えさせたい。

【相手の立場を尊重しながら自分の意見を発表する】

・同意する場合……「確かに ですね。」(相手の話を繰り返す。)

「その他にも と というものもあります。」

(相手の意見に補足する。)

「言い換えると(つまり) ですね。」(相手の話を言い換える。)

「特に の点が……ですね。」(具体的な部分を示す。)

・反論する場合……「 の点で別の方法が考えられると思います。」(解決策を提示する。)

「見方を変えれば、 ができるという長所もあります。」

(別の視点からの見方を提示す)

(3) 短時間での討論会

物語や説明文の単元の中で、短い時間を使って討論を行うこともできる。

中学校の学習の中では、「情景描写から、登場人物の心情を読みとろう。」という学習課題があるが、登場人物の心情をとらえるために短時間で討論会を設けることも一つの方法である。

【物語の登場人物の心情をとらえる例】

・『字のない葉書』(2年生)の「父」は本当に「暴君」だったのだろうか。

・『平家物語』(2年生)の「那須与一」の最後の場面で、「あ、射たり。」と言った人と「情けなし」と言った人の気持ちについて、自分ならどちらの立場を選ぶか根拠を明らかにして話し合おう。

まとめ

討論や話し合い学習は、「話す・聞く」力を定着させるためにはしっかり取り組んでいかなければならない単元であるにもかかわらず、ないがしろにされてしまうことが少なくない。討論に至るまでの過程で情報を収集したり原稿を推敲したりといった総合的な力も鍛えられるため積極的に取り組みたい。準備や取り組みに時間がかかってしまうが、コツコツと着実に学習を進めることによって国語力が身についていくはずである。

地域教材を授業に取り入れよう

～サブテーマ～

授業に活かす身の回りの地域

川口市立青木中央小学校 教諭 石井玲子



ねらい

小学校中学年の社会科は、地域教材が中心である。また高学年においても、社会的事象を身近にとらえさせるため地域教材を活用することができる。しかし児童は地域のことを知っているようであまりよく知らないことが多い。地域の中に学習内容が理解できる資料はたくさんある。それをどのように教材化し授業に取り入れていくかということ視点を置き、実践を行った。

実践例

実践1「学校から家までの道のりを、地図に表してみよう」

社会科が始まる3年生の最初の単元で、学校の周りの地図を扱う。学区の中、学校の周りを『絵地図』で表し、そこに共通の記号などを入れ、『地図』に発展させていく。地図は生活科の中でも『生活科マップ』として地図らしいものに触れたり、普段の生活の中でも目にすることがある。しかし、いざ授業の中で出てくると、自分の位置と地図の中の位置を上手く結びつけられない児童もいる。そこで、年度当初にこのような実践をしてみた。

学校から家までの道のりをふり返り、地図に表す。

学校を出発し、家までを一本の道でつなく。

図の中に途中、または周りにある目印となるもの、特徴的なものを書きこませる。

児童への指示

やさん、
ポスト、信号など、目印になるものを書き込んでいきましょう。

学校と家が近い人やもっとかけそうな人は、通り道ではない場所にも目印となるものを描き込んでみましょう。



学校の門を出ると右に曲がるよ。まっすぐ行くと...

途中、さんちがここにあるよ。となりはパン屋さんよ。

忘れてしまったら今日帰りながら何があるかよく見てきて描きだしてください。

*このような活動を通し、児童は自分が普段関わっているもの、見ているものを改めて社会的事象として認識することができる。また教師側からすると、児童が普段どんなものを目にし、生活の中で感じているのかということが分かる。地域にある社会的事象の情報収集、児童の地域に対する見方を知ることができる。

実践2「学校の周りにある事象の教材化」地域教材作り

地域に目を向けると、身近なところに授業で利用できるようなものがある。教師が年間を通して「地域のものと関連することはないか」という意識、たとえば「うちの学校の近くにはどんなお店があるか?」「近くにある工場では何を作っているか?どんな仕事をしているのか?」「なにか古くからのものはないか?」というような意識を少しもつことで、見えてくるものがある。

たとえば・・・

<p>芝川 町会の方から情報収集。 地域の開発にかかわる学習(3年) 見沼代用水の学習(4年) 地域の政治にかかわる学習(6年)などで利用できる。</p> 	<p>埼玉高速鉄道 開通までの話を聞くことができる。</p>  <p>地域の開発にかかわる学習(3年) 暮らしの中の政治(6年)などで利用できる。</p>	 <p>青木氷川神社 現在のオートレース場は氷川神社の敷地であった。境内にある「元気になる木」を訪ねて、遠方からも参拝する人もいる。昔から大切にされているものと人々(3年)の題材として利用できる。</p>
--	---	---

<p>町の中の鋳物製品・工場 町の中にはたくさんの鋳物製品がある。鋳物工場の仕事(3年)、工業生産を支える人々(5年)などの導入で活用できる。</p>   <p>鋳物づくり体験 鋳物組合による出前授業も可能。</p>  	<p>樹モール商店街 商店街整備までの話を聞くことができる。歴史学習(6年)などで活用できる。</p>    
--	---

まとめ

地域のものを教材に取り入れるためには、まず何より教師が地域のことを知らなければならぬ。「地域に学び、地域で学ぶ」地域社会のものを少し取り入れることで、子どもの興味関心は高まり、自分から知りたい、調べたいという意欲にもつながる。今後もさらに魅力ある授業づくりのために、教材開発に努めていきたい。

社会 小学校 単元の導入

子どもと一緒に学習問題をつくろう

～サブテーマ～

問題意識・追究意欲を大切にした 学習問題のつくり方

川口市立元郷小学校 教諭 佐野純也



ねらい

問題解決的な学習が重視されている。その上でまず必要となるのが、子どもの問題意識である。なぜなら、子どもたちに問題意識がなければ、自ら追究し、解決していく学習にはならないからである。学習問題やめあてを提示する前に、子どもたちの問題意識を高めておくことが大切である。ところで、問題意識と言っても、子どもたちは出会った事象に対して最初から問題と認識することはあまりない。解決する必要感や切実感をもったとき初めて問題として意識される。そこで、解決する必要感・切実感をもたせて子どもの問題意識を高め、追究意欲のわくような「学習問題」のつくり方に焦点をあて、実践を行った。

実践例

(1)「ブラックボックス」に目を向けさせる

【6年：大陸に学んだ国づくり】（1 / 5時）

まず、聖徳太子の業績を調べ、聖徳太子の理想を見つけ出せるようにする。

次に、東大寺の大仏の写真資料を提示し、聖武天皇を中心とした政治が行われていることに気づかせる。

「ブラックボックス」（板書の「？」の部分）に目を向けさせる。

子どもたちから出てきた疑問を生かして、「聖徳太子の理想はどのように受けつがれていったのか。」という学習問題を立てる。

天皇中心の国にしようとしているね。

大仏は聖武天皇の発案で造られたのか。

天皇中心の政治が全国に広がったんだね。

ブラックボックスに目を向けさせる。

聖徳太子の理想は実現したんだ！ この100年の間でどのように受けつがれていったのかな？

学習問題：聖徳太子の理想はどのように受けつがれていったのだろうか。

(2)子どもの感情に訴える

【6年：二つの戦争と日本・アジア】（1 / 7時）

まず、ノルマントン号事件の風刺画を読み取る。

次に、描かれていることの内容を知らせる。

教師の発問「当時の人々はどう思ったかな。」（子どもの感情に訴える。）

そして、年表を提示し、のちに条約が改正されたことを確認する。子どもたちから湧き上がっていた「不平等条約を早くなくさなくては。」という感情と、実際に不平等条約が改正されたという事実を生かして学習問題を立てる。

海に投げ出されている人がいる。

浮き輪で助けようとしているのかな。

船の人は他人事のような表情に見えるけど.....

船長たちは助ける義務があったにもかかわらず、日本人を見捨てて助けなかったのです。

ノルマントン号事件について調べて、学習問題をばらそう。

ノルマントン号事件
イギリス船ノルマントン号が紀伊半島おきでちんぼつ。

海で投げられている
・助けを求めているよう
・浮き輪を持っている人がいる
・助ける指示をしている？
・船に乗っている人は笑顔

子どもの感情に訴える。
「当時の人々はどう思ったかな。」

このようなことが許されるなんてひどい！！

1886	ノルマントン号事件
1894	条約改正一部成功 (治外法権廃止)
1911	条約改正を達成 (関税自主権回復)

でも不平等条約は改正されたんだね。
どうやって改正したのかな？

不平等条約を改正したい！！
どうすれば改正できるのかな.....

学習問題：不平等条約はどのようにして改正されたのだろう。

(3)その他

- ・子どもの考え方と社会的事象とのずれを生かす
- ・体験活動や見学を通して気付いたことを生かす
- ・子どもどうしの考えの違いを生かす

まとめ

学習問題のつくり方について、子どもの思考を生かすことに焦点をあてて実践してきた。子どもの疑問や感想を大切にすることで、子どもの問題意識を高め、追究意欲をもたせることができる。なお、本実践は歴史単元でのものだったが、「ブラックボックス」に目を向けさせたり子どもの感情に訴えたりする方法は、他の学年・単元でも使うことができる。

今後も、子どもが問題を自分のこととしてとらえられるように、資料や発問を工夫して授業に臨みたい。

小中連携を意識した社会科学習

～サブテーマ～

小学校の学習内容を活用し、
効率よく授業を進める工夫

川口市立西中学校 教諭 橋本 武



ねらい

社会科は、学習内容が多いという声をよく耳にする。そのため、社会科は暗記するものだと捉えている生徒も少なくない。特に中学校では歴史が通史となり、学習内容がより一層増え生徒の感覚としても暗記色が強まる。そのようなにならないためにも、小学校でどのような学習をしてきているのかを把握し、それを活かして授業を展開して効率よく学習を進めていく必要がある。

さらに、基礎的基本的内容を定着させ、それを活かして思考力・判断力・表現力の育成や資料活用能力の育成を図る必要がある。それらを可能にする学習として、次のような授業実践を行った。

実践例

【歴史的分野「第2章 古代国家の歩みと東アジア世界」・「中世の日本」】を例にした授業展開

(1)単元全体の小学校の復習を行う。

生徒が小学校における学習内容を、どの程度習得しているのかを把握することは授業を作る上で大切なことである。そこで、小学校での学習内容を思い起こさせるための実践 及び学習内容を定着させるための実践 を行った。

<実践> カードを用いた復習

小学校の教科書からポイントになる語句・人物画をカードにして提示する。学習内容を忘れていた生徒が多く、分からない生徒でも参加しやすい雰囲気の中で既習事項の確認を行うことができる。復習を行う際に時代ごとにまとめること、関連するものどうしを分けることを意識して行った。

<進め方の例>

- ・「この人物は誰ですか？」と問いかけて、聖徳太子の人物画を提示する。
- ・「聖徳太子と言えば何でしょう？」と問いかけて、関連事項を挙げさせる。
冠位十二階、十七条の憲法、遣隋使
- ・「どんな内容？」と問いかけて既習事項の確認を行う。
- ・「聖徳太子の他に人物は出てこない？」と問いかけ、当時の人間関係を復習する。
- ・「聖徳太子はどのような国づくりを目指したのでしょうか？」と問いかけ、当時の政治の様子を思い起こさせる。

小学校での既習事項を確認しておくことで、

「聖徳太子はどのような国づくりを目指したのか？」という観点ではなく、

「聖徳太子はどのように天皇中心の国づくりを目指したのか？」という観点で、中学校の学習内容を深めて進めることができる。

<進め方の例 >

- ・「この人物を覚えていますか？」と問いかけて人物画を提示し、生徒に答えさせる。【写真】
- ・語句カードをランダムに提示する。
- (1) 時代ごとに区分する。【写真】 (2) 人物と関連事項をつなげる。【写真】

各時代の出来事・人物・関連する事象を復習した後に、穴埋めプリントを行う。空欄に入る語句は語句カードと同じであるため、生徒はスムーズに取り組むことができ、二度の復習が行われることになる。

【写真】人物画の提示

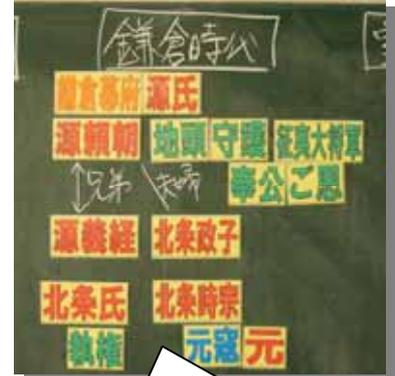


人物・国・・・赤、用語・・・緑、戦い・・・水色、その他・・・オレンジと、カードは色を分けて見やすく作成した。

【写真】時代ごとに区分



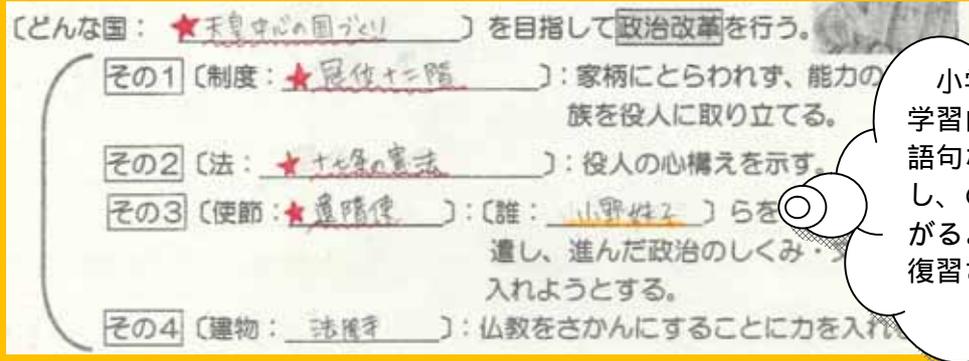
【写真】人物とつなげる



間違いの部分进行しながら、人物と歴史的な事象との関連・人物と人物の関係・時代の流れを確認し整理をしていく。

<実践 > プリントによる復習

実践を踏まえて行うことで効果が上がると考えられる。小学校の教科書をもとに、穴埋めの学習プリントを作成し、【個人で行う 教科書など資料を見て行う 周囲の人と確認し合い行う】という三段階で行うことで、一人一人の理解度を把握することができる。



小学校と中学校の学習内容が重複する語句などを穴埋めにし、のちの学習に繋がるように整理して復習させる。

(2) 小学校の学習内容を活用した授業展開

小学校の学習内容を用いることで、中学校での学習をより深め、思考力・判断力・表現力や資料活用能力を身に付ける時間を多く確保できる。

<実践 > 基礎基本の定着と学習内容の深化

小学校と中学校では学習内容が重複しているものが多くあり、同じことを二度学ぶ傾向にある。そこで重複している部分は基礎基本として押さえて授業の効率化を図り、思考力・判断力・表現力、資料活用能力を身に付ける時間を多く確保して学習内容を深める工夫をした。以下に三つの例を示した。

【例】学習内容の効率化

小学校で学習した内容である。そのため復習として行い、内容には深入りせずに確認程度で扱う。

中学校の学習内容として「東アジア世界」の概念が入ってくる。学習の効率化を図ることで、生徒に考えさせたい当時の中国（隋）との関係に迫る思考の時間が確保できるようになる。

【例】小学校での学習内容を深める工夫

小学校の教科書には、中学校で学習する内容を易しい表現で記載していることがある。例のように取り上げることで、小学校の学習内容を中学校につなげ、知識として深めることに活用できる。

【例】学習内容をつなげて、歴史的事象への思考を深める。

学習した内容にはなっているため、振り返ることで復習となる。学習した内容と新たな内容がつながるように工夫する。

学習内容の効率化と内容をつなげることで、どのように「公地」という制度が変化していったか、ということに迫ることができ、思考を深めることができる。

(3)まとめの学習(年表づくり)

<実践> オリジナル年表の作成

授業を進めていく中で、生徒の知識が点としては存在しているが線としてつながっていない。そのため、バラバラになっている知識をつなげる作業が大切である。その作業を自分流のオリジナル年表を作成することで、歴史を流れて捉えさるとともにまとめる力を身に付けさせるねらいがある。

この図は、中大兄皇子（645）と天智天皇（645）の関係を軸にした年表の作成過程を示しています。中大兄皇子が天智天皇に即位し、都を藤原宮（大和）に移す（遷都）ことが中心です。また、大化の改新（645）と白村江の戦い（663）も示されています。矢印でつながっているのは、知識が点として存在しているが、線でつながっていない状態を示しています。

章のまとめとして行わせたもので、オリジナル（自分で分かる年表）を意識させて作成している。基本的には枠の使い方は自由で、作成する際にも図・資料・吹き出しなど表現の仕方も生徒が工夫を凝らしている。

年表を作成する中で、人物と出来事の関連や人物の名前の変化、人物と人物の関係を、線で結ぶことで知識をつなげながらまとめている。

時代	出来事	関連事項
593	蘇我氏を、としに天皇中心の国づくりを目指し、政治改革を行う。	★女性の推古天皇が即位し、天皇を助ける役職に「つがせる」と呼ばれる。
603	冠位十二階	冠位にそれぞれ地位を区別し、官制にもそれぞれ階級を設けた。
604	十七歳の憲法	律令の中心構造を大方向に
607	遣隋使	小野妹子が隋に文化や文字を伝えた。
645	大化の改新(中大兄皇子が蘇我氏を倒す)	↓
	★改新の詔(公地・公民)	
663	★白村江の戦い	唐・新羅 VS 日本
668	★中大兄皇子 → 天智天皇に即位(都を藤原)	
672	★壬申の乱(天智天皇の孫継体) →	大友皇子 VS 天智天皇
712-713	古事記・風土記 ↓ 律令国家	
701	★大宝律令(明神天皇、孝徳天皇)	
	↓ 人口数 口分田	
720	★日本書紀	
723	★三世一身法(自分、子供、孫)	開墾した土地は、所有を認め、
743	★聖德太子年表(聖徳太子)	開墾した土地は、永久に自分のものにしたい。

まず小学校で学習したことを整理し、次に中学校で学習したことを加えていくことで、小学校の学習内容を補う、または新たな知識を付け加えて歴史を流れて捉えることにつながるよう工夫されている。また、この例では小学校の学習内容に、中学校の学習内容に、小学校と中学校に出てきたものに が付けられている。

まとめ

社会科は学習内容が多いことから、学習内容をこなすことと基礎基本の定着に重点を置くことで、本来身に付けるべき思考力・判断力・表現力や資料活用能力の育成まで十分に行えていなかった。そこで小学校の学習内容に注目し、中学校の学習内容と重複している部分を活用することで、既習している事項は軽く扱い授業の効率化を図ることができた。さらに身に付けるべき力を育成する時間が確保でき、学習内容を深める効果が大いにあった。

公民の授業に体験的な活動を取り入れる授業展開の工夫

～サブテーマ～

方眼紙一枚から地方自治に対する意識を育てる

川口市立幸並中学校 教諭 佐藤昌幸



ねらい

社会科の授業は学習内容の多さから、課題解決型の授業ではなく、講義型の授業が多くなる傾向がある。また、体験的な活動は生徒の興味・関心を高め、主体的な学習活動をうながすが、なかなか実施ができていない現状があると思われる。生徒の興味・関心を高め、主体的な学習活動、課題設定につなげることが行えていない実情がある。

今後、課題解決的な学習や体験的な活動を充実させていくためには、生徒が興味・関心を持ち、主体的に考察することができる内容を作っていくとともに、教員に無理がかからない範囲でできるものにしなければならぬと考える。

実践例

(1)基本編 地方自治を知る

この授業は自分なりの街を想像することで、地方自治について考えていく授業になる。

準備するもの

生徒用

方眼紙 生徒一人一枚

定規 } 生徒個人が用意！
色鉛筆 } 必要に応じて
のり・ハサミ }

教師用

教室の大きさ、建物の大きさをイメージするためのもの
(東京ドーム・東京ディズニーランド・コンビニエンスストアなど)

条件

1cm = 10m (もしくは20m)とする。

必ず自分の家を記入する。

つくる施設は自由、自然物(海・山等)でもかまわない。

自分が住んでみたい街をつくること。



この方眼紙で地図を作成しなさい。
この地図の町はあなたの町です。自由に施設・建物を記入してください。

生徒の学習進度によっては、「税金」と「公共施設」の関係を考えさせる授業にもつなげられる。税金を増やすことで公共施設などを充実させることができることに気がつけば、自分たちの街を、税金の多い街に改造していくこともできる。実際の生徒の意見としては、「住民を増やす」「企業を誘致する」「国の施設を誘致する」ことにより、施設を充実させるという意見が出されていた。

(2)応用編 市町村合併を考える



それぞれ、自慢の町が出来上がったと思います。それでは、同じ班の人の街と、自分の町を上手くつなぎ合わせて下さい。

どうやって、つなぎ合わせようか？

うまくつなぎ合わせることができない班は、同じ「地形」「交通網」で組あわせてみましょう。

このように、複数の街や市などが一つになることを何と言いますか？



うまくつながらないな～。
道路どうしをつなげようよ！
この線路で全部の町をつなげられないかな？



あれ、学校が沢山ある！
ショッピングセンターばかりじゃないか！

ポイント3

生徒たちに、複数の町や市がつながる **市町村合併**

であることに気付かせる。

ポイント4

市町村合併によって不要な施設ができる等、利点だけでなく、問題点が発生することに気付かせる。



うまくつなぎ合わせることができましたか？
つなぎ合わせていく中で疑問点や、問題点は生まれませんでしたか？

自分たちの新しい街を参考にして、市町村合併の利点と問題点を考えてみましょう。

利点

人の数が増えるよね。
不要な施設を廃止できるから、支出を抑えることができそうね。



問題点

警察署や役場が、こんなに必要あるかな？
施設を減らしたら、僕の街からは離れてしまって、不便になってしまう。
施設を減らすのだからお金が必要はずだ。



話し合ってみて、どのような利点・問題点がでてきたでしょうか？

自分たちの街を住みやすくするために、自分たちで問題点を解決していくことが地方自治だということに気がついたでしょうか？

今回の授業の感想をまとめてみましょう。

生徒の一言コメントより

自分の街を自由にデザインできたのが面白かった。

道路の接続や、線路、駅の場所などで街の状況が変わっていくと思った。

川口市と鳩ヶ谷市が合併した秘密が分かった。

実際に自分たちが住んでいる町の自治がどうなっているかが気になった。

最初は何を書きこんだら良いのか分からなかった。

最初は別々の街を作っていたので、つなぎ合わせるの難しかった。

まとめ

生徒は自由度が高いこともあり、ゲーム感覚で自分の町を作っていく。その中で、生徒の作品を見ながら発問することで、自分なりの対応・課題解決を進めていく生徒が増えていった。逆に、実際に自分が住む街をモデルに地図を書き、その問題点に気がついた生徒もいる。また、実際の地方自治に興味・関心を抱いた生徒もいた。

このように、身近な題材と体験的な活動を並行して利用することによって、授業への興味・関心を高め、知識や理解を生かしていくことができるように、今後も体験的な学習を生かした授業に取り組んでいきたい。

算数 小学校4年生 単元「どのように変わるかな」

小中の系統性を図る

～サブテーマ～

関数指導のポイント

川口市立柳崎小学校 教諭 酒寄 誠



ねらい

関数の指導に関する内容として小学校第4学年で「伴って変わる2つの数量関係」について学習します。初めて や などの記号を使って2つの数量関係を一般化して式に表します。

日常の事象を振り返り、実際に並べたり、折ったりする算数的活動を行うことが第一歩です。そこから絵や図で表したり、表に表したりする中で「伴って変わる2つの数量関係」の規則性を見だし、一般化を図ります。ここで2つの数量関係を や を使った式（帰納法の考え方）で表します。最後に、見つけた規則から「次は・さらに」などいろいろな場合に当てはめたら（演繹法の考え方）その便利さを味わうことができるでしょう。ここでは、発展的な学習として授業実践を行いました。

実践例

「どのように変わるかな」の指導から 課題1

絵を教室にけいじします。下の図のように画びょうで作品をとめます。

(画びょう)

1まい 2まい 3まい

3枚目まで実物掲示

<絵で場面を把握>
作品1枚で画紙4個、2枚で6個、3枚で8個・・・表に記入し、作品数と画紙数の規則を考える。

□や○、表中の画紙の数は未記入で児童に配付

作品の数がふえると、必要な画びょうの数がどのように変わるかを調べ、下の表にまとめました。

作品数(まい)	1	2	3	4	5	6	7
画びょうの数(こ)	4	6	8	10	12	14	16

<表から規則を見出す>
作品が1枚増えると、画紙数は2個増える。

「画びょうの数 = 作品数 × 2 + 2」

<作品数と画紙数の関係を式に表す>
画紙数は、作品数を2倍して2を見した数

実際に活動したり、絵や図で表したりするよさ

絵や図に表して場面を把握したり、解決方法の見通しを立てたり、解答の見通しを立てることに役立ちます。児童の実態に合わせて、実際に作品を掲示して場面を把握したり、自分の考えが正しいかどうか確認をしたりする際にも有効です。

表に表すよさ

表に画鋸の数を書き入れていくことで、作品数（ ）と画鋸数（ ）の2数の数値に着目して両者の関係性を考えます。変化の様子として作品数が1枚のときは画鋸4個、2枚のときは6個、3枚のときは8個・・・というように、作品数が1枚増えると画鋸数が2個増えることをとらえます。そのことがわかれば、絵や図がなくてもさらに表の続きを書き入れていけます。

次に、表から作品数（ ）と画鋸数（ ）の2数の関係にはどんな規則性があるかを考えます。

式に表すよさ

と の関係を式に表し、一般化することで、 や に数値を入れた時に、もう一方の数値を求めることができます。ここでは、学級の児童全員（34人）分を掲示するのに必要な画鋸数を考えさせることで、絵や図、表などに表す大変さと比べて、とても便利であることがわかります。

式

$$= 34 \times 2 + 2$$

$$= 68 + 2$$

$$= 70$$

答え 70こ

課題2

下の図のように、紙を同じ方向に折っていきます。
(折り目)

紙を折る回数 (回)	1	2	3	4	5	6	7
折り目の数 (本)	1	3	7	15	31	63	127

<児童が考えた折り目の数の求め方>
例) 6回折ったとき折り目の数
(1つ前の折り目の数) × 2 + 1
15 × 2 + 1
= 31 答え 31本

紙を折る回数が1回増えると、☆紙を折る回数の1つ前の折り目の数を2倍して1を足した数 (児童が考えた求め方)

☆紙を折る回数分2をかけて1を引いた数 ... ○ = 2[□] - 1 (一般的な解答)

実際に折り進め、折り目の数を確かめるのが難しい問題では、表の数値の情報から、どんな規則性が考えられるかを見つけることとなります。ただ、規則を見いだすことができれば、「次に、さらに・・・」と考えを広げられます。ここでは、紙を10回同じ方向に折った時の折り目の数を考えました。

規則を見つければ、8回目の折り目の数は、255本・9回目の折り目の数は511本まで計算し、10回目の折り目も同様に1023本と求められます。さらに発展させた例としては、もし何度も折り続けることができれば、紙に厚みができ、何回折ったら自分の身長と同じ高さになるかなどと新しい考えが浮かんでいきます。

まとめ

今回は小学校第4学年の発達段階から、日常生活にある2つの数量関係について指導をしてきました。具体物として作品や折り紙を用意しましたが、課題1は中学校2年生の「一次関数」、課題2は中学校3年生の「いろいろな関数」の内容を扱っています。

初めて本格的に や の記号を用い、式に表して一般化する学習でした。実物で確認したり、絵や図、表などを使ったりしながら意欲的に取り組むことができました。日常生活と関連付けて、いろいろな場面で表にしたり、2つの数量の規則を見つけたりしながら繰り返して学習をすることを通して、高学年や中学校段階での関数の学習への架け橋になったと思います。

小中の系統性を図る

～サブテーマ～

中学校への円滑な接続に向けて

川口市立元郷南小学校 教諭 伊藤 弥生



ねらい

小学校算数・中学校数学特定研修会において各小中学校でつまずきの多い学習や指導に難しさを感じる単元について、先生方にアンケート調査を行いました。右の表は、小学校6年生の指導内容のアンケート結果です。つまずきの多い学習は、数量関係（比・比の値、比例・反比例）が一番多く、「比例・反比例は生徒の意欲をつかみづらい」という意見がありました。また、「基本的な計算の仕方や概念の理解がしっかりと身につけていないので、中学校でも数学が苦手教科となってしまう」という指摘もあり、小学校で基礎・基本をしっかりと定着させることが求められていることがわかります。これらの意見を受け、「比例・反比例」の単元や基礎・基本の定着のための取組を通して、算数から数学への円滑な接続について考えました。

小学校6年生の単元	人数
分数の計算	12
整数と小数、分数の乗除混合算	7
式による表現	6
比	14
平面図形	6
図形の計量	4
メートル法	4
速さ	17
数量関係（比・比の値、比例・反比例）	23
資料の平均、度数分布、柱状グラフ、場合の数	11

実践例

(1) 比例・反比例の学習への意欲を高めるための実践について

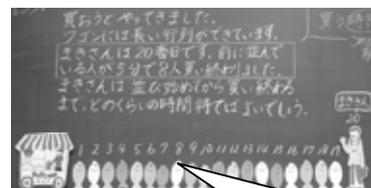
小学校

具体的な事象で考える

中学校

抽象的に考える

中学校では抽象的に考える力が必要になってくるので、小学校段階では日常の生活場面を意識し、問題提示の時に半具体物を用いて児童の意欲を高めるようにしました。また比例の関係をを用いると効率よく問題を解決できることを児童に実感として味わわせるために、日常生活の中で生かせる場面の問題の際には紙の重さを測定するなど、具体物を使って考えさせました。

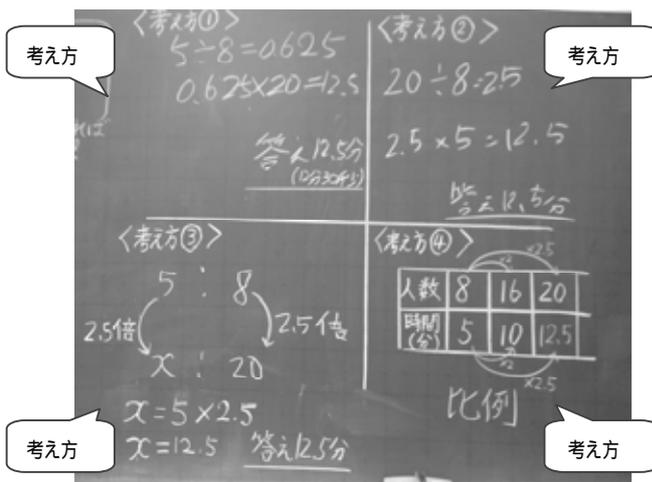


半具体物を使うことで、実際の場面が想像しやすくなる。



(2) 中学校の教科書を開いてみよう ～中1数学 比例・反比例の導入問題にチャレンジ～

本単元は、中学校1年生の「比例と反比例」の単元につながります。では、中学校ではどのような問題が出てくるのでしょうか。児童の算数・数学の関心を高めるため、比例の単元の終わりに、「比例と反比例」の導入問題に挑戦しました。はじめに、ポップコーンのワゴンには長い行列ができています。まきさんはどのくらい待たばよいのかと問題を提示しました。すると、子どもたちから「これでは解けない」と声があがりました。「まきさんの待ち時間を予想するためには何が分かればいいか」と発問すると、すぐに「待っている人の数と、一人の買う時間」という答えが出てきました。まきさんが20番目、5分間で8人かかることを提示し、自力解決へ向かわせました。



東京書籍「新しい数学1」P.106

- 考え方 5 ÷ 8 で1人にかかる時間を求め、20倍する。
- 考え方 5分で8人だから、20人だと20 ÷ 8で、5分の2.5倍の時間がかかる。
- 考え方 比を使って 5 : 8 = x : 20
- 考え方 表を書いた。10分だと16人帰ることになる。買う時間と人数は比例している。

上記の考え方が児童から発表されました。「さんと同じだ!」「私にもできた!」児童は様々な解き方があることに気付きながら、わかる楽しさを味わうことができました。

児童の感想 ・「数学」と聞いただけで、難しそう!と思ってしまい不安だったけれど、問題が解けておもしろい!と思った。
 ・今まで習ってきたことが使えるとわかった。
 ・兄がいるのもっと教科書を見せてもらおうと思った。

(3)基礎・基本の定着に向けて ~「もとなん教室」・「もとなん算数ファイト」の取組~

問題を解くには、基礎・基本が定着していることが大切です。そこで、本校では「もとなん教室」を実施し、補習が必要な児童を対象に、かけ算やわり算など基礎となる計算練習をしています。また、6学年の全児童を対象に、「もとなん算数ファイト」の時間を設けています。問題数が4問のショートプリントを使い、児童の実態に合わせて小数・分数の計算、公倍数や平均、比、比例など様々な問題を混ぜて、5分間で実施しています。これらの取組を継続して行うことで基礎・基本の定着を図り、中学校の数学へスムーズに接続していただけることを期待しています。

まとめ

「比例・反比例」の学習は、6年生の11月に学習した後は、中学校1年生の2学期半ばまで1年間ほど学習しないこととなります。児童は小学校6年間で学習してきた内容、方法を使うことで、中学校の問題も解くことができるとわかり、前向きに考えることができるようになった点では、円滑な接続につながる効果があったといえます。比例の学習直後の授業であっても、児童は「一人にかかる時間を求める考え方」が多く、「比例」という用語はほとんど出ませんでした。比例・反比例の考え方を定着させるには継続的な指導が必要であると実感しました。そして、比例・反比例を学習するまで1年ほど間が空くことを考慮すると、中学校の教科書を扱う時には実施時期を考えたり、「もとなん算数ファイト」などの定着問題に取り組みせたりするなど、計画的・継続的に学習を進めていくことが大切であると感じました。

数学 中学校1年生 単元「比例と反比例」

小中の系統性を図る

～サブテーマ～

小中の円滑な接続を目指した

学習課題の活用

川口市立南中学校 教諭 飯塚 稔



ねらい

中学校の指導者が、小学校での学習内容をより深く理解したうえで、中学校の授業づくりをすることは大切です。それは、生徒が学習内容をいっそう理解できますし、定着を図ることもできると考えられるからです。ここでは、小中の系統性を図り、円滑な接続を目指した学習課題の活用例を紹介したいと思います。

実践例

(1) 小学校6年生における「比例の利用」の確認

小学校6年生において、小単元「比例の利用」の中の学習課題として「針金の長さを求めよう」というものがあります。これは、中学校1年生の「比例と反比例の利用」でも扱う内容です。

【東京書籍 新しい算数6下 P.16にある学習課題】

【東京書籍 新しい算数6下 指導書 P.28にある板書計画】

2 上の束になった針金の長さを、全部の長さをはからずに求める方法を考えましょう。

☆ 上の針金の長さは、何と比例しているとみることができますか。

☆ 上の針金の束の重さは240g、上の針金と同じ針金3mの重さは48gです。
このことをもとにして、上の針金の束の長さを求めましょう。

10月23日

2 束になった針金の長さを、全部の長さをはからずに求める方法を考えましょう。

長さ x (m)	3	
重さ y (g)	48	240

・3mの重さは48g
比例を使って求めよう。

たかし
 $48 \div 3 = 16$
 $240 \div 16 = 15$
答え 15m

けん
 $240 \div 48 = 5$
 $3 \times 5 = 15$
答え 15m

針金の長さは、重さと比例している。
1mあたりの重さを求めて、全部の重さを1mあたりの重さでわる。
(長さ^{たかし}と重さが比例することを使って求めている。)

3 1分あたりの道のり

道のり	$366 \div 96 = \frac{366}{96}$	$146 \div 366 = \frac{146}{366}$ (倍)
時間	$146 \times \frac{366}{96} = 38.29\dots$	$96 \times \frac{146}{366} = 38.29\dots$

約38分後

重複する学習内容のなかで、どこに重点を置いて指導されているのか、次のように考えました。
日常生活の場面に比例を活用する授業(具体物、半具体物を使った授業展開)
比例とは、「2つの量とがあって、が2倍、3倍、…になると、それともなっても2倍、3倍、…になること」と理解している
表を横に見る力を養う

(2) 中学校1年生における「比例の利用」の授業展開

中学校1年生における「比例と反比例」の学習の重点は、次の3つであると考えました。

- 比例、反比例の関係を、負の数の世界にまで拡張すること(抽象化)
- 表を縦に見る力を養い、「 $y = a$ 」の形に式化すること
- 説明する力を養う(言語活動の充実)

そこで、「比例と反比例の利用」において、同じ「針金」を学習課題として授業展開しました。

課題設定のポイント

- 生徒の学習意欲を引き出し、主体的に学習に取り組むことができるように、導入課題を『生活と関連のある課題』にしました。



- ・小学校でも学習してきている内容なので、比例関係を利用して問題の解答を求めることはできます。また、「針金全体の長さを求める問題」は、今年度の県の学習状況調査で出された問題であり、正答率が40%を下回る低さでした。そこで、この問題の正答率を高める手立てとして、『どのような計算をすればよいかを説明すること』に焦点をあてることとしました。

指導の流れ

学習課題

『針金全体の長さを求めるためには、どのような計算をすればよいかを説明してみよう』

針金全体の長さを求めるためには、針金について何を調べればよいか。

それによって針金全体の長さが求まるのは、「針金の長さ」と「針金の重さ」に、どんな関係があるからか。

「比例」とは何か。

本当に「比例」していると言っていいのか。

針金1mの重さを調べたら、30gあった。針金全体の長さは何mだと考えられるか。

針金全体の長さを求めるためには、どのような計算をすればよいかを説明してみよう。

「針金全体の長さを求めるためには、針金全体の重さを、1mあたりの重さでわる」

【板書計画】

11/7 比例と反比例の利用

【導入課題】
次のような針金があります。この針金全体の長さを求めるために、しずかさんとたくやくんが、次のような会話をしています。
しずかさん「針金全体の長さを、直接はからず求めることができないかな。」
たくやくん「針金全体の重さだったら、すぐにはかることができるよ。」
そこで、しずかさんは、この針金全体の重さをはかってみました。
しずかさん「針金全体の重さは500gだったよ。」
たくやくん「それは、□を調べる必要があるね。」
さて、針金全体の長さを求めるためには、針金について何を調べればよいでしょうか。□にあてはまることを考えてみましょう。

針金1mの重さ ・ 針金10cmの重さ ・ 針金1cmの重さ
単位量あたりの重さ ・ 針金10gの長さ ・ 針金全体の長さ
針金1mの長さ ・ 針金10cmの長さ ・ 針金1mの体積

針金の長さは、針金の重さに「比例」している

【課題1】
ここで、しずかさんが針金1mの重さを調べたら、30gありました。針金全体の長さは何mだと考えられますか。

(1)表

重さ (g)	30	930
長さ (m)	1	?

$930 \div 30 = 31$ 答、31m

(2)式
 $y = ax$ に $x = 30$, $y = 1$ を代入：長さ 重さ 長さ 重さ
 $1 = 30a$ より、 $a = \frac{1}{30}$ (3)比例式
 $1 : 30 = x : 930$
 $y = \frac{1}{30}x$ となり、 $30x = 930$
 $x = 31$ 答、31m

針金全体の長さを求めるためには、針金全体の重さを、1mあたりの重さでわる

【適用問題】
右の写真は、シュレッダーで細かくされたコピー用紙のごみです。「A4のコピー用紙は、1束で500枚あり、その重さは1kgでした。また、シュレッダーのごみの重さは、2.8kg ありました。」
(1)シュレッダーのごみが、A4の大きさのコピー用紙の何枚分になるかを求めなさい。
(2)このごみが、A4の大きさのコピー用紙の何枚分になるかを求めるためには、どのような計算をすればよいかを説明してみよう。

重さ (kg)	1	2.8
枚数 (枚)	500	?

$500 \times 2.8 = 1400$ 答、1400枚

このごみが、A4の大きさのコピー用紙の何枚分になるかを求めるためには、ごみの重さと A4 コピー用紙1束の枚数をかける

【ワークシート】

まとめ

今回、この研究を進めるにあたり、実際に小学校算数の教科書(指導書)を購入しました。小学校の学習指導要領等で、算数における「比例と反比例」の指導学年と内容は、ある程度把握しているつもりでした。しかし、小学校の教科書をきちんと調べたことで、具体的にどこまで学習しているのかを正しく確認することができました。たいへん参考になり、確認して良かったと感じています。今後も、いろいろな領域、単元において、小中の系統性を図っていきたいと思います。

<1年> 4章 比例と反比例 練習プリント①
1級 2級 3級 4級

【導入課題】
次のような針金があります。この針金全体の長さを求めるために、しずかさんとたくやくんが、次のような会話をしています。
しずかさん「針金全体の長さを、直接はからず求めることができないかな。」
たくやくん「針金全体の重さだったら、すぐにはかることができるよ。」
そこで、しずかさんは、この針金全体の重さをはかってみました。
しずかさん「針金全体の重さは500gだったよ。」
たくやくん「それは、□を調べる必要があるね。」
さて、針金全体の長さを求めるためには、針金について何を調べればよいでしょうか。□にあてはまることを考えてみましょう。

針金1mの重さ ・ 針金10cmの重さ ・ 針金1cmの重さ
単位量あたりの重さ ・ 針金10gの長さ ・ 針金全体の長さ
針金1mの長さ ・ 針金10cmの長さ ・ 針金1mの体積

針金の長さは、針金の重さに「比例」している

【課題1】
ここで、しずかさんが針金1mの重さを調べたら、30gありました。針金全体の長さは何mだと考えられますか。

【導入表】

重さ (g)	30	930
長さ (m)	1	?

$930 \div 30 = 31$ 答、31m

【式】
 $y = ax$ に $x = 30$, $y = 1$ を代入：長さ 重さ 長さ 重さ
 $1 = 30a$ より、 $a = \frac{1}{30}$ (3)比例式
 $1 : 30 = x : 930$
 $y = \frac{1}{30}x$ となり、 $30x = 930$
 $x = 31$ 答、31m

針金全体の長さを求めるためには、針金全体の重さを、1mあたりの重さでわる

<1年> 4章 比例と反比例 練習プリント②
1級 2級 3級 4級

【導入課題】
右の写真は、シュレッダーで細かくされたコピー用紙のごみです。「A4のコピー用紙は、1束で500枚あり、その重さは1kgでした。また、シュレッダーのごみの重さは、2.8kg ありました。」
(1)シュレッダーのごみが、A4の大きさのコピー用紙の何枚分になるかを求めなさい。
(2)このごみが、A4の大きさのコピー用紙の何枚分になるかを求めるためには、どのような計算をすればよいかを説明してみよう。

重さ (kg)	1	2.8
枚数 (枚)	500	?

$500 \times 2.8 = 1400$ 答、1400枚

このごみが、A4の大きさのコピー用紙の何枚分になるかを求めるためには、ごみの重さと A4 コピー用紙1束の枚数をかける

小中の系統性を図る

～サブテーマ～

空間図形の苦手を克服するために

川口市立芝東中学校 教諭 中嶋 康雄



ねらい

小学校算数・中学校数学特定研修会で行ったアンケートによると空間図形の指導に苦慮されている傾向がありました。立体については概念の学習の後、立体の計量に関する学習と立体の見方や表現に関する学習を行います。立体の計量は、公式などを利用し解決することができる児童生徒が多いですが、立体を表現することに関しては扱う授業時間も少なく定着しにくい学習です。小・中の学習内容の系統性を互いに理解し、立体を展開図や見取図に表現できる力がつくようにするための工夫の事例を紹介します。

実践例

...特に重要な内容を示す。

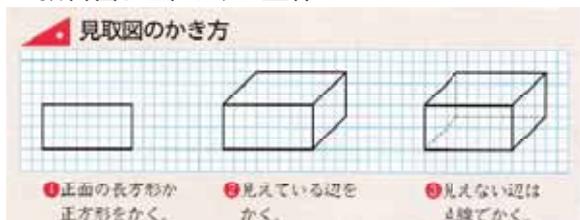
小学校4年生「直方体と立方体」(9時間)

直方体・立方体の概念、特徴、性質
直方体、立方体の面や辺の位置関係

展開図、見取図の意味とかき方
平面上や空間内の点の位置の表し方

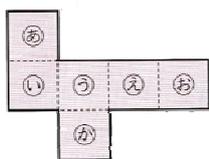
教科書に出てくる立体

立体に親しむアイデア

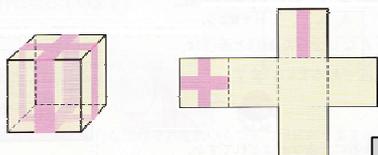


立方体をつくる

折り紙を利用し、立体をつくることはなかなか難しいですが、自分でつくことで発見できることも多く、面の数や辺の数、頂点の数などを見取図と見くらべながら調べることができ、児童の興味・関心が高くなります。



下の左の図のように、立方体の箱にリボンをかけます。右の展開図を組み立てたとき、リボンが左の図のようになるように、展開図にリボンをかきましょう。



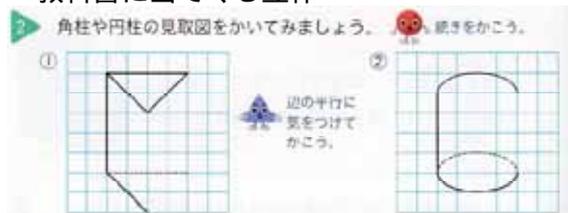
小学校5年生「角柱と円柱」(5時間)

角柱・円柱の概念、特徴、性質

角柱、円柱の展開図、見取図

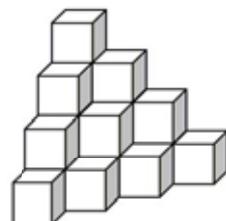
教科書に出てくる立体

立体に親しむアイデア

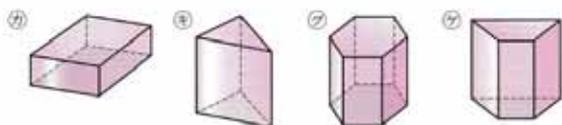


立方体の個数を数える

同じ大きさの立方体を積み上げた図を提示し、立方体が何個積み上げたものかを見つけさせる。見えない部分の想像力も必要になり、見えない部分の辺などに注目するかぎとなります。児童はゲーム感覚で学ぶことができます。



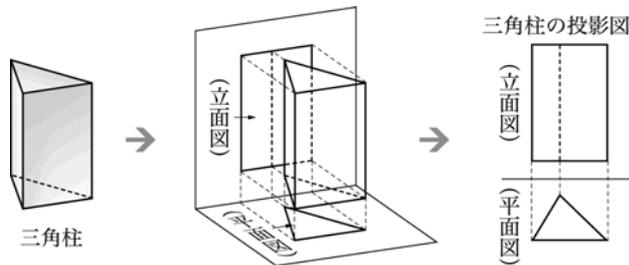
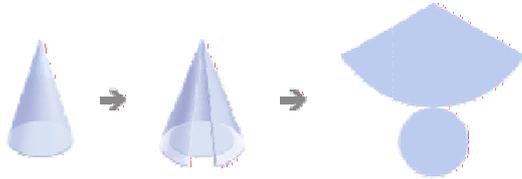
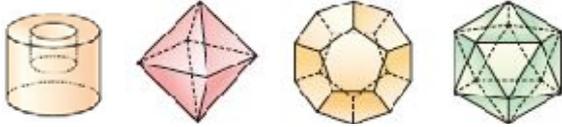
①の立体のような、平面だけで囲まれている下の立体か～④の特ちょうを調べよう。



中学校1年生「立体の見方と調べ方」(8時間)

直線や平面の平行と垂直 面の動き 立体の投影図 立体の展開図

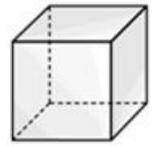
教科書に出てくる立体



立体に親しむアイデア

1分間で立方体をかく

立方体を見取図を、定規を利用して1分間でかけるように取り組みます。状況に応じて、始めは格子点や方眼の用紙を利用することで時間も短くなります。最終的には無地の紙に自分でかけるようになることで、辺や面の位置関係を認識することができるようになり他の立体にも活用できることが期待できます。

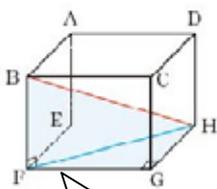


折り紙でくす玉づくり

小学校段階よりもより複雑な立体を作成することで感覚を養うことができます。Web ページに折り方等が数多く載っています。

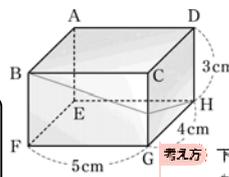
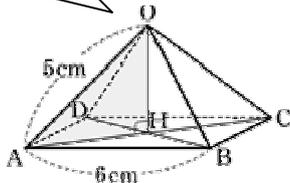


中学校3年生「三平方の定理の利用」(3時間)



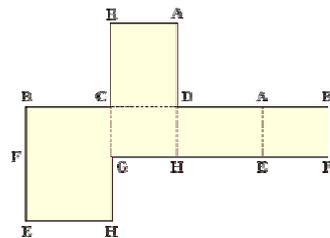
直方体の対角線の長さを求める

立体の高さを求め、体積や表面積を求める



立体の側面の最短距離について考える

考え方 下の展開図に、長さがもっとも短くなる時の赤のようすをかき入れなさい。



考え方をヒントにして、赤の長さを求めなさい。

立体を平面で考え、長さを求めたり、表面積を求める学習を行います。

まとめ

小学校段階では立体を見取図や展開図で表現する学習は、辺を数本記入するだけに留まっています。しかし、中学校では1学年から正多面体などの複雑な見取図の学習があり、また、中学校3年生では立体の展開図を利用することで問題を解決したり、立体の表面の長さだけでなく立体の辺ではない長さを考える高度な思考が必要になります。このことから中学校でも立体を実際につくことや小学校で学習する立体の表現方法の復習をすることが重要です。また、短時間でできる反復練習を空間図形を学習する前から徐々に行い始め、レディネスを再構築することとスキルを向上することが学習の課題解決の糸口のひとつとなると考えます。

理科における小中の円滑な接続の工夫

～サブテーマ～

ムラサキキャベツ液の活用

川口市立本町小学校 教諭 阿久沢透

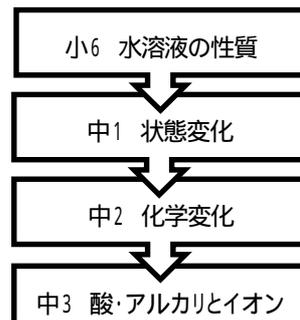


ねらい

水溶液の性質を視覚的に理解させ、児童の実験に対する意欲を高めると共に、小中の学びの円滑な接続を図る。そのためにムラサキキャベツの抽出液を用いた授業を紹介したい。

ムラサキキャベツ液を指示薬として使うと、酸性やアルカリ性といった液体の性質の微妙な違いが色の变化として現れるため、pHを視覚的に理解することができる。また、色がカラフルで、その色の变化に関心を引きやすく意欲的に実験に取り組みさせることができる。

中学校3年「酸・アルカリとイオン」でもムラサキキャベツ液を使用することで中和反応を視覚的に理解できると考えた。また小学校で学習したことを想起しやすくなり、小中の学びの円滑な接続を図ることができる。



実践例

(1) ムラサキキャベツ液の作り方

手軽に作れる水抽出や手もみ法、大量に作れる煮出す方法、そして色が鮮やかに出るエタノール抽出など用途や器材に合わせて作り方がいくつもある。ここでは比較的簡単にできる2つを紹介する。(これ以外にもインターネット上では他数紹介されているのでぜひ参考に。)

水による作り方

手軽で安全。小学生でも作業できる。大量に作ることができる。

欠点はやや色が薄く鮮やかでないこと。保存できないこと。

- 1 ミキサーに、ムラサキキャベツを4枚程(約80g)入れる。
- 2 水(400mL程度)を加えて2~5秒ほどかき混ぜる。
- 3 ろ過する。(キッチンペーパーや布巾などでOK)

ミキサーをつかうとあっという間にできる。

ミキサーがない場合、鍋で煮出すとよい。やけどに注意。冷まして使う。

エタノールによる作り方

透明で色が鮮やか。エタノールを蒸発させると色を濃くできる。

欠点は作業に時間や手間がかかること。引火すること。

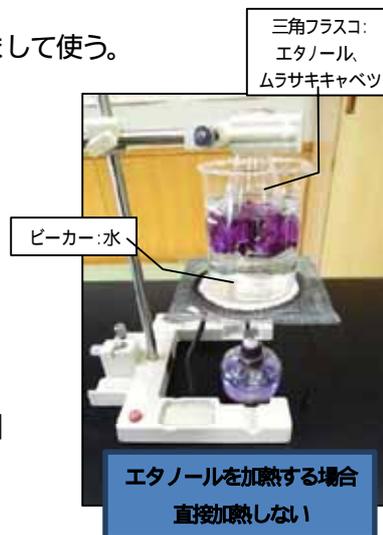
- 1 ムラサキキャベツの葉を2枚程度、千切りにする。
- 2 葉をエタノール(50mL程度)につけておく。
- 3 2時間ほどして色が抜けたら、葉を取り除く。

葉を一度冷凍させておくと、繊維が壊れて色が出やすくなる。

ろ紙に吸わせて乾かすと、同じように呈色し長期保存できるムラサキキャベツ紙ができる。

加熱した方が数分で色が抜ける。ただしエタノールは揮発・引火しやすいので、直接加熱は絶対にしない。

(左写真のように湯煎で加熱する。沸騰させない。)



【ムラサキキャベツ液とは】

ムラサキキャベツはほとんどのスーパーで売っている野菜で、誰もが目にしたことがある食材である。

このムラサキキャベツの抽出液はpHに敏感に反応するのでpH指示薬として使用できる。非常にカラフルな発色をするので、児童・生徒の興味関心を高めながら液体の性質を学習するのに適している。



pHは水素イオン濃度のこと。
7が中性。

pH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	濃い赤	赤	赤紫			紫	青	青緑	緑	黄緑	黄色			
	強酸性		弱酸性			中性		弱アルカリ性		強アルカリ性				

こまごめピペットに採り、数滴ずつ水溶液に加えて使用する。保存は冷蔵庫で。

これはムラサキキャベツに含まれるアントシアニンという色素が反応している。他にも「ナス(の皮)」「赤シソ」「ブドウジュース」「ブルーベリー(の皮)」「アサガオの花」などでも同様の変化が起きる。

(2) ムラサキキャベツ液を活用した小学校の授業展開について

～第6学年「水溶液の性質」発展的学習～

本単元ではリトマス紙を使い、あらゆる水溶液は酸性・中性・アルカリ性に分類できることを学習する。

その発展的学習として、スポーツドリンクや洗剤などの身近な水溶液が何性に分類できるかを、リトマス紙やムラサキキャベツ液を使って調べる。

その鮮やかな発色や、身近な食材でpHを測定できる体験により、児童の興味を高め、理解を深めることができる。



(3) ムラサキキャベツ液を活用した中学校の授業展開について

～第3学年「酸・アルカリとイオン」～

本単元では中和反応を学習する。

その発展的学習として、ムラサキキャベツ液で呈色した酸性・中性・アルカリ性の水溶液を、いろいろな組み合わせで混ぜる。

小中で共通した教材を使用することで興味・関心を喚起し、既習事項を想起しやすくなる。また、2種類の水溶液を混ぜると、色が必ずその2色の間の色になることが視覚的にわかり、中和反応に対する理解を深めることができる。



まとめ

リトマス試験紙では酸性かアルカリ性かを調べることはできても、微妙な性質の違いを調べることができない。しかしムラサキキャベツの抽出液を合わせて使うことで、酸性やアルカリ性の濃さによって色が細かく変化することから、その強弱についても理解することができる。

ムラサキキャベツという食材を使って実験することで、BTB溶液を用いるよりも水溶液の性質を身近に感じさせることができる。また、色がカラフルで、その色の変化に関心を引きやすく意欲的に実験に取り組みさせることができる。さらには、家庭でも実験できるよさもある。

中学校3年「酸・アルカリとイオン」でも導入等でムラサキキャベツ液を使用することで、小学校での学習を振り返ることができ、小中の学びの円滑な接続を図ることができる。

また、今回は触れることができなかったが、この単元では、「リトマス試験紙やこまごめピペットの使い方などの技能を小学校でしっかり身につける。」「酸性やアルカリ性といった理科用語を正しく理解させる。」といったことも小中の円滑な接続のためには必要である。

<参考文献> 神奈川県立総合教育センター2006『幼小小中 校種間連携学習指導事例集』

大日本図書教育研究室2010『小学校理科観察・実験セーフティマニュアル改訂版』大日本図書

理科 中学校1年生 単元「身のまわりの物質」

主体的に学習を進める授業の工夫

～サブテーマ～

混合物から純粋な物質を取り出す

川口市立青木中学校 教諭 中井弘子



ねらい

理科の中で観察、実験が好きだと答える生徒は多い。自分達で決定できる場面があるとより意欲的となる。生徒の学習意欲向上は直接的に学力向上につながる。そこで、中学校1年生の水溶液の単元で「**実験方法を考える**」「**説明する**」「**実験する**」「**まとめる**」4つの流れで生徒が主体的に取り組む授業を展開した。本実践は、小学校で学習したろ過や蒸発の学習に中学校1年生の水溶液の学習を積み重ねたまとめである。このような授業展開を中学校3年間で計画的に積み重ねて行くと科学的に探求する能力の基礎と態度を身につけていくことができる。

小3 もの重さ

小5 もの溶け方

小6 水溶液の性質方

中1 水溶液

実践例

課題 混合物から純粋な物質を取り出す

選択A デンプン0.5gと塩化ナトリウム3gから、塩化ナトリウムだけを取り出す。

選択B 塩化ナトリウム0.5gと硝酸カリウム3gから、硝酸カリウムだけを取り出す。

方法選択A 純粋な物質を確認する。

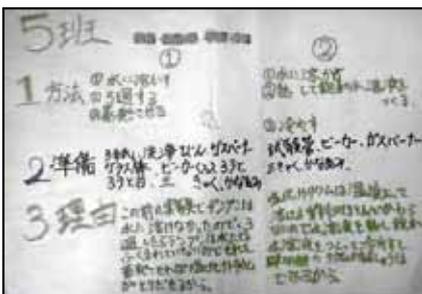
方法選択イ 純粋な物質の質量を測定する。

(1)「**実験方法を考える**」 科学的な思考力・表現力の育成 ()は具体的な本実践内容

課題について知識や情報を【物質の性質】
選択肢を選ばせる。【課題選択A Bと方法選択アイ】
班名班員名、実験方法、準備、理由をまとめさせる。
【班ごとに、A3の用紙1枚にマジックで記入させる。】
・安易な方法を選択させない工夫をする。
【Aは1点、イは2点として合計点を黒板に書く。】
・視野を広げるため他班に相談に行くのもOKとする。



安易に他班に聞かないで、班の独自性を出そうと考える。



・課題が大切。身近なものや既習内容を使って思考できるものがよい。【それまでの教科書の実験で使用した塩化ナトリウムと硝酸カリウムを実験と同じ質量で提示。】

課題例 1年生「白い粉の物質を区別する」
2年生「必要な大きさの抵抗を考える」
3年生「水溶液を区別する」

(2)「説明する」 科学的な思考力・表現力の育成

各班で、話し合った方法と、その理由を発表させる。
各班の内容を共有するためプリントを黒板に貼る。

・安全な内容の実験であるか確認をする。

〔班ごとに、教師がOKを出すまで何回も説明させる。〕

〔内容が理解できているか、その場で生徒に順番に説明をさせる。特に、大切な部分は班員の中で表現が苦手な生徒に発表をさせると班員同士の学び合いが活発になり、学びが深まる。〕

〔安全でやり直しができる実験であれば、失敗が予想されてもOKを出す場合もある。〕

「なぜ、この方法を考えたの？」は大切。



(3)「実験する」 観察・実験の技能の育成

「説明する」でOKが出た班から実験を進める。

実験器具が多数になる場合は準備を工夫する。

・基本的な器具は班ごとのかごにまとめる。

・移動可能な棚で整理すると、出し入れが簡単になる。

・実験室における器具の配置を変えず、名称も提示する。

・紺色の蒸発皿やゴム付ガラス棒のように小学校で使用した特徴的な器具があると、学びが継続しやすい。

〔授業が複数時間の計画のときは、各班のプリントを使って個別の準備、確認ができる。〕

〔視野が広く結晶を確認しやすいライト付顕微鏡など、結果がわかりやすい器具を用意する。〕



1年生は安全眼鏡や紺色の蒸発皿等の小学校と器具の継続できる場面が多い。

生徒の希望により、再度実験できるように準備をしておくとうい。

「説明する」で内容が理解できると、課題解決に向け実験への取り組みの集中力が増す。



(4)「まとめる」 科学的な思考力・表現力の育成

班ごとの発表やグラフ化等結果の共有を行う。

・黒板の結果は、一目でわかるように内容を精選する。

〔紙に記入し貼ると時間の無駄がなく、授業後資料の保存も簡単にできる。〕

〔結果が出た班から提示させると、他班と結果を比べ再実験や考察のやり直しができる。〕

〔結果からわかったことを理由も発表させる。〕

〔結果から・個人レポートを記入させる。〕



「何がわかったか？」結果から共有させよう。



まとめ

授業の始めに「また考える実験だ。」と喜ぶ生徒がいた。本実践は2時間扱いで行ったが、年間の授業数には限りがある。3年間を見通した複数回のまとまった実践をするだけでなく、教科書にある各観察、実験に選択できる場面を取り入れるなど科学的に探求する学習の流れを部分的にでも取り入れ積み重ねていくと、生徒の取り組み意欲に大きな違いが見えてくる。観察、実験の主役が生徒となるこの学習は、生徒が主体的に授業に取り組める効果的な方法である。科学的に探求する能力の基礎と態度を育成するために実践を継続していくことは、生徒の学力向上につながると思う。

理科 中学校1年生 単元「大地の変化」

生徒にとって、スムーズな学びとは 既習内容を活かして深めよう！

～サブテーマ～

小中での学習内容の系統性を踏まえた授業

川口市立幸並中学校 教諭 長島多絵子



ねらい

小学校・中学校それぞれの学習指導要領の理科の目標を見てみると、共通している部分が多く、どちらも「科学的な見方や考え方を養う。」で終わっている。ただ、小学校では「自然に親しみ」問題を解決していくとなっているが、中学校では「自然の事物・現象に進んでかわり」「科学的に探究する能力と態度を育てる」とある。小学校で身につけた内容や態度を、中学校で深め追究していくことで、着実に科学的な見方や考え方を養っていくことと理解した。

実際に、「小学校でやったことがある」という生徒の声を聞くことがある。覚えている生徒もいれば忘れていた生徒もいるが、どこまで学習していてどこからは中学校で取り組んでいくものなのかを教師が分かっていると、生徒自身が効率よく学習できると思われる。そのために小中の学習内容をお互いの教員が把握し、既習内容を活かしてさらに深め追究させていくことが重要で、それにより科学的な力をさらに育てていけるのではないかと考え、取り組んだ。

実践例

(1)小中学校での学習内容の系統性 「大地の変化」

小5 7 流れる水のはたらき

実験 水を流したときのようす、はたらき

- ・しん食、運ばん、たい積
- ・川の水の量の変化と土地のようす
- ・川の上流の石と下流の石
- ・こう水をふせぐ工夫



小6 6 土地のつくりと変化

- ・土地の構成物と地層の広がり

観察1 地層を調べる

- ・地層のでき方と化石

観察2 化石を調べる

実験 地層はどのようにできるのか

- ・れき岩、砂岩、でい岩
- ・火山活動や地震による土地の変化

広大な空間
長大な時間

広大な空間
長大な時間

地球内部の活動
広大な空間

中1 3章 大地の変化を読みとる

- ・地層のでき方
- ・地層や化石からわかること
- ・堆積岩

観察3 堆積岩のつくり

- ・大地の変動、大地の歴史

観察4 地層の観察

中1 1章 火をふく大地

- ・火山の形、噴出物、岩石

観察1 火山灰の観察

観察2 火成岩のつくり

- ・地層の広がり

中1 2章 動き続ける大地

- ・地震のゆれの伝わり方と大きさ

実習1 地震のゆれの広がり

- ・地震と災害
- ・地震の起こるしくみ

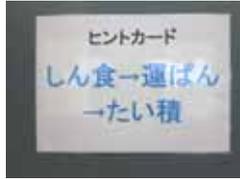
(2)授業実践 既習内容を思い出す手立てとして、「ヒントカード」を活用
 単元4 大地の変化 第3章 大地の変化を読みとる

ねらい 断層やしゅう曲はどのようにしてできたのか、実験等を通して考察し理解する。

展開例

発問：（断層やしゅう曲の写真を見せて）このような地層はどのようにしてできたのだろうか

「地層のでき方」の確認



系統性

- 小5 流れる水のはたらき（侵食・運搬・堆積）
- 小6 土地のつくりと変化（地層のでき方）

土砂の堆積する順番を実験し考察する

実験：粒の大きさを色分けされた砂は、水で流された後、どのように堆積するか

予想

ペットボトルに2種類の色砂（粒大、粒小）と小麦粉を入れ、水を加えて、よく振る

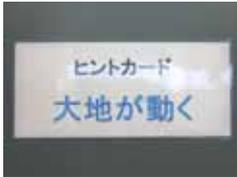


重いものが先に堆積し、層となり、平らに堆積していく

発問：（断層やしゅう曲の写真にもどり）写真のようになるには、この後どのような変化があったのだろうか

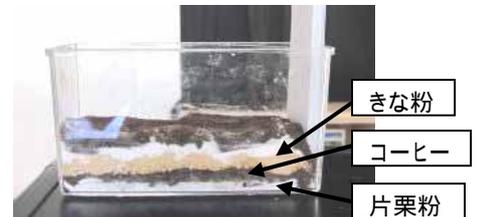
考える（個人 グループ）

確かめる... 片栗粉、コーヒー、きな粉の粉を使った地層モデル（固められた層を再現できる）で検証



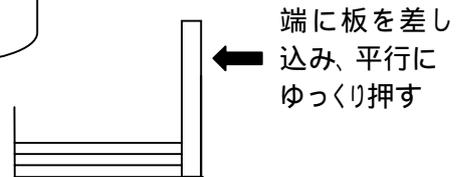
系統性

- 小6 土地のつくりと変化（地層が陸上で見られるのはなぜか）
- （地震や火山の噴火による土地の変化）



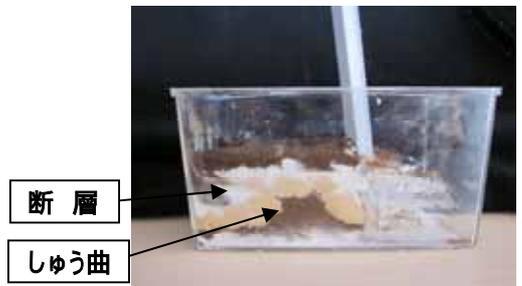
各グループごとに発表

実験：地層の横から力を加えるとどうなるのか（右上図）
 断層やしゅう曲の確認



端に板を差し込み、平行にゆっくり押す

まとめ 断層やしゅう曲は、プレート（大地）の動きによって力が加わりできたものである。



まとめ

「ヒントカード」を使うことにより、小学校で学習したことを思い出す手がかりとなり、普段より意見が多くでたように感じた。また、小学校では扱わないため疑問に思っていたことが、中学校での学習で解決し「すっきりした」という声もあった。小中の学習内容の系統性を探っていくのは大変だが、生徒のスムーズな学びにつながる大事なステップだと考える。

理科における小中の円滑な接続の工夫

～サブテーマ～

光と力の分野での小中のつながりを考えた指導

川口市立安行東中学校 教諭 武井信義



ねらい

小学校ではどのような内容で指導されてきたのか、意外と中学校の教員は知らない事が多い。まずは小学校で行われてきた授業の内容を確認したい。そして、その上で中学校として発展した学習にするために見通しをもって指導していければいいと考える。中学校1年生での光と力の分野でつながりを考えた指導を確認しながら工夫していくことを考えた。

実践例

(1) 光の分野での小学校と中学校のつながり

光における分野では、小学校3年生で学習している。中学校では、1年生で光の学習を行う。その間、約4年間のブランクがある。小学校では、観察や実験を中心に行っており、体験したことについては、覚えていることも多い。

小学校 第3学年「光のはたらきを調べよう」

中学校 第1学年「光の世界」

小学校では・・・光は鏡で決まった方向にはねかえる。(反射する。)
光はまっすぐ進む。



中学校では・・・鏡の面に垂直な線に対して入射角と反射角が等しい。(光の反射の法則)

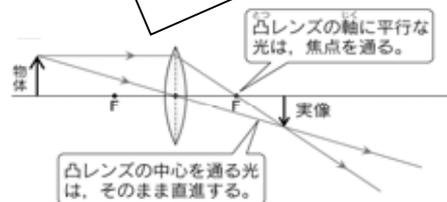


ボックスに鏡をつけました。箱の中に装置が入ります。

小学校では・・・虫メガネで光を集めることができる。レンズと光が集まる点までの距離は決まっている。



中学校では・・・凸レンズを通る光の道筋から実像、虚像を作図する。



小学校で学習した内容のプレテスト。

日光などの光は_____に進む。

鏡を使って、日光などの光を_____させることができる。

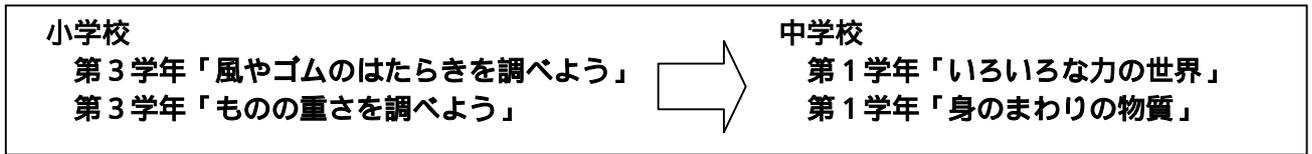
虫メガネを使うと、日光を_____ことができる。

解答

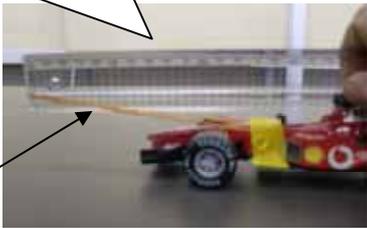
まっすぐ 反射 集める

(2)力の分野での小学校と中学校のつながり

力の分野でも、小学校3年生で学習している。光の分野と同じく約4年間のブランクがある。中学校では、1年生で行う。力の分野でも、実験を中心に小学校で行い、体験したことについては覚えていることも多い。

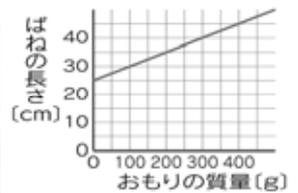


小学校では・・・ゴムを長く伸ばすほど車は遠くまで動く。

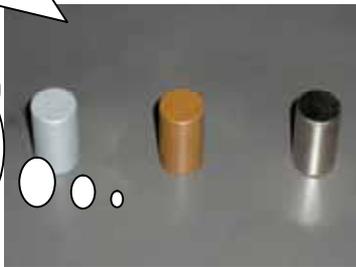


輪ゴム

中学校では・・・ばねの伸びは、ばねにつるすおもりの質量に比例する。(フックの法則)

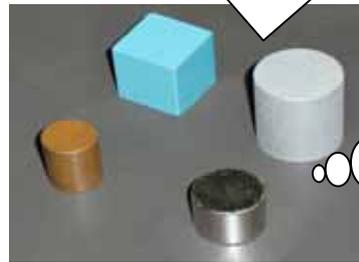


小学校では・・・種類が違っても、同じ体積でも重さが違う。種類が同じだと、形が変わっていても重さは同じである。



体積が同じ3種類の物質の質量は違う。

中学校では・・・物体1cm³あたりの質量を密度と言う。物質ごとに密度は決まっている。



体積が違う4種類の物質の密度を求めよう。

小学校で学習した内容のプレテスト。

ゴムを_____伸ばすと、物を動かすはたらきが大きくなる。
 台ばかりを手で押す時の力は、おもりの_____におきかえて考えることができる。
 同じ体積でも、物の種類が違っても重さ_____。

解答 長く 重さ も違う

まとめ

小学校の内容を確認することによって、すでに学習している内容を思い起こさせて、さらに中学校の内容に発展させることができる。

光の分野と力の分野では、どちらも小学校3年生で学習していて、それ以来久しぶりの学習となっている。小学校で学習した内容が興味深く、そして、さらに詳しく学習したいという意欲が持てるようになっていけば、中学校でも興味・関心をもって取り組む可能性は大きい。特に、小学校の「光」の学習では、鏡や虫メガネを使い、反射や光を集めたりなどの体験学習から、どうしてそのような現象が起こるのかなどを作図を通して考えてみることでよいと思った。「力」の学習においても、風力やゴムの力の大きさと運動の大きさについて、車を使っての実験などから力の大きさとばねののびの関係について考えを膨らませられるとよいと思った。重さについては、大きさや形と質量の関係、物質の種類によって重さが異なる事などから、物質の密度などへの考えを発展させられるとよいと思った。

児童の「伝えたい」「聞きたい」という 思いを大切にしたワークシート活用法

～サブテーマ～

コミュニケーションを図る楽しさを体験させるために

川口市立新郷南小学校 教諭 堀 祥子

川口市立上青木南小学校 教諭 小笠原 舞



ねらい

平成23年度より小学校で外国語活動が完全実施となり、“Hi, friends!”や英語ノート（教材）を使用して外国語活動を行っている。毎時間の授業では、ゲームやチャンツ等を取り入れ、語彙や表現に十分に慣れ親しませてからアクティビティを行っているが、児童の興味を喚起する場面を設定しないと、児童が本当の思いや事実ではないことを言うてしまうことがわかってきた。

児童が自分の本当の思いを「伝えたい」、友達の思いを「聞きたい」と思う場面を設定することで、コミュニケーションを図る楽しさを体験できると考え、ワークシートを作成した。このシートを活用することで、ただ英語を覚えたり言ったりするコミュニケーション活動から、主体的に自分のことについて、相手に考えや気持ちを伝えることができ、英語の学習への意欲にもつながっていくことをねらいとしている。

自分の本当に伝えたいことが伝えられるコミュニケーション活動となるよう、児童の興味を喚起する場面を取り入れるよう工夫した。

実践例

(1)ワークシートについて

【ワークシートの共通事項】

ワークシートの一番上に、対象学年と“Hi, friends!”のどのlessonで使用できるものが示してある。

ワークシートを使って活動を行う際のキーセンテンスが、四角で囲んである。

印には、児童が行う活動の内容が示してある。

このシートの場合、.

自分の名前をアルファベットで書く。

友達の名前にあるアルファベットを尋ねる。

【活動の共通事項】

1. 児童一人ひとりに一枚のワークシートを渡し、次々と友達に質問して回れるように探検バック等に挟んで、持ち運べるようにする。
2. キーセンテンスの使い方を確認する。
3. シートを持ち、活動に参加する。

Lesson 1 Do you have "a"?

Class(-) No.() Name()

Do you have ~? ~を持っていますか? ~がありますか?
Yes, I do. / No, I don't. はい、/いいえ。

※自分の名前をアルファベットで書いてみよう!

※友達の名前にあるアルファベットをたずねよう!

友達の名前		友達の名前	
a		n	
b		o	
c		p	
d		q	
e		r	
f		s	
g		t	
h		u	
i		v	
j		w	
k		x	
l		y	
m		z	

(2)ワークシートの活用方法

【Hi, friends! Lesson2 (5 年生)
I'm happy.のシートの場合】

「How are you?」に対して児童は反射的に「I'm fine.」と返すことが多いので、他の単語についても表情を自分で描くことで、どの単語の時にどのような様子なのか、考えることができる。また、ある場面（休み時間等）において、友達はどのような様子・表情になるのか、興味をもつことができる。

1. “Hi friends!”にも出てくる単語について円を顔に見立て、どのような表情であるかを自分で描いて、表現する。
2. ある場面において、どんな気持ちかを、友達にインタビューをし、答えを書き込む。このとき、答えは日本語でもよいし、上で描いた顔でもよい。場面が空欄ところは、自分で考えて、どんな時かを書く。

5年 Lesson 2 I'm happy.
Class(-) No.() Name()

How are you, ○○? ○○さん、ごきげんいかがですか。元気です。

I'm fine.

〈こんなどきは、どんな様子が顔をかいてみよう。〉

元気 fine	うれしい happy	はらぺこ hungry	眠い sleepy	疲れている tired	悲しい sad
○	○	○	○	○	○

〈こんなどきは、どんな様子がインタビューしてみよう。〉

	さん	さん	さん	さん	さん
登校したとき					
休み時間					
外国語活動の時間					
登壇が山のように出されたとき					
友だちと遊んでいるとき					

【Hi, friends! Lesson5 (6 年生)
Let's go to Italy. のシートの場合】

どこに行きたいかを尋ねる際に、条件付けを行い、「～なら、どこに行きたい」とすることで、児童は自分の本当の答えを考えることができる。

更に、友達はどこに行きたいのかと尋ねたい気持ちになり、活動に意欲的に参加できる。

1. 児童はシートにある全ての条件について、自分の答えを書き込む。(日本語でも英語でも良いこととする。)
2. 条件をつけて友達の行きたい場所を尋ね、友達の答えを書き込む。

まとめ

これらのシートを活用することで、教師から指示されたことを一方的にこなすのではなく、自分の思いを伝えるためにコミュニケーション活動を行うようになった。また、相手の話す英語も興味をもって聞くようになった。

今後も、更に児童のコミュニケーションに対する意欲を引き出すことができる活動を考えていきたい。

6年 Lesson 5 Let's go to Italy.
Class(-) No.() Name()

Where do you want to go? どこに行きたいですか。
I want to go to ~. 私は～へ行きたいです。

※自分の行きたい場所を「自分の答え」に書こう！
※友達の行きたい場所をインタビューして、「友達の答え」に書こう！

	外食をするなら	冬休みに旅行に行くなら
自分の答え		
友達の答え		

	遊びに行くなら	外国に行くなら
自分の答え		
友達の答え		

英語 中学校 「4技能を総合的に育成するための言語活動」

4技能を総合的に育成するためのワークシート活用法

～サブテーマ～

複数の技能を統合した言語活動を行うために

川口市立幸並中学校 教諭 大野 健一



ねらい

平成25年度埼玉県外国語の指導の努力点の1つに、「4技能〔聞く・話す・読む・書く〕を総合的に育成し、コミュニケーション能力の基礎を育成する指導や言語活動の一層の充実を図る」、とある。また、川口市の英語科の重点目標においても、「3学年を見通し、4技能をバランスよく育成する指導計画の改善と活用を図る」ことが示されている。日々の授業のなかで生徒たちには、「聞くこと」や「話すこと」は得意だが、内容的にまとまりのある文章を読む力や、自分の考えをまとめた文章にする力が足りないと感じている先生方も多いはずである。4技能をバランスよく育成するためには、複数の技能を関連付けた言語活動を行う必要がある。本稿では、4技能の総合的に育成するためのワークシートの活用法を紹介する。

実践例

(1) Step1 **Reading**

初めに、ワークシートの一番上のリーディング活動を行う。学年によって読む文字数は異なるが、五十文字から百五十文字程度の内容である。これを、二分間～三分間で黙読する（クラスの習熟度や学年によって変える）。「本文を読んで、あとの問いに答えましょう」という設問をつけてある。これは読んだ内容に対してクラス全体で T/F を行ってもよいし、または、Q&A 形式で行ってもよい。やや難しい内容の時やリーディングが苦手な生徒の多いクラスでは、T/F のほうがよりスムーズに内容確認ができる。Q&A の問題を作る時は、5W1H を意識させるような問いを設けると、生徒は読む時にもそれらを意識して読む習慣がつくようになることが実践を通じて分かった。

Step1 **R** マキのスピーチを読んで、あとの問いに答えましょう。

There is a computer in my room. My father gave it to me for my birthday. I use it to send e-mails. I enjoyed sending e-mails to my friend in Sydney last night. She came to my house last summer. We enjoyed swimming in the sea. We had a good time.

1.

2.

3.

[写真 1] リーディング活動



上記の本文の内容を読んでT/Fを行う場合、 Maki used a computer to play games. → T or F ? She has a friend in Sydney and they enjoyed swimming last summer. → T or F ?などの問いが考えられる。また、Q&A の場合でも、これらの設問を質問形式にすればよい。本文下の解答欄 1 . 2 . 3 は、答えを書かせる場合にのみ使用するとよい。

(2) Step2 **Speaking Listening**

Reading の活動に続いてこのワークシートで行うのは Speaking と Listening である。4 技能を総合的に育成するためには、1 つ 1 つの技能を個々に扱うのではなく、技能と技能を関連付けながら学習させることが大切である。この Step2 では、「話す」と「聞く」の活動を統合させる。

最初に、自らが言うべき内容をシートに記入させる。1 年生の段階では、理由まで書くことはなかなか難しいが、2・3 年生には理由も書かせることが大切である。理由を書かせることにより、その次の Speaking 活動の幅が広がるのである。

例えば、2 年生の Unit6 動名詞のワークシートでは、昨夜楽しんだことを書かせるところから Step2 の活動が始まる。A の「What did you enjoy last night?」という問いに対して、B の答えを生徒自らが考えて記入する。例えば、I enjoyed watching movies last night . と、必ず動名詞を使った文を入れさせる。また、その一文についてのコメントなど、もう一言付け加えることも可能であれば考えさせたい。しかし、まとまりのある英文を書く習慣がついていない生徒はかなり難しく感じるようである。そこで、最初から高いハードルを設定せず、短い文でもよいので、I like E.T. very much. など、一言書かせるところから始めるとよいだろう。さらにもう一言の部分は、すべての生徒が書けるわけではないが、ここまでできるようにすることを最終目標にするとうい。

Step2(1) 下線部に昨夜楽しんだことを動名詞を使って書きましょう。さらに一言入れましょう。

A : What did you enjoy last night ?
B : I enjoyed (_____ 動名詞を使った文 _____).
(_____ さらにもう一言 _____).
How about you ?
A : I enjoyed (_____).
(_____).
B : I see. / Sounds good. / That's nice. / Me, too.

□ □ (2) 友達にインタビューして英語でメモをとりましょう。

名前	昨夜したこと	その他聞きとれたこと

[写真2]スピーキングとリスニング活動の様子



Step2 で自ら書いた情報を伝えあう。このスピーキングとリスニング活動は、3～5分ほど時間を取って行う。上記のマスには、インタビューして聞き取った情報を記入する。記入はできるだけ英語で書かせると書く力も同時につくことが分かった。記入欄は、4～5人にインタビューできるように作られているが、時間内であればできる限り多くの友達にインタビューさせる姿勢を持たせることも大切である。その他聞きとれたこと(理由)を書くところには、1つだけでなく、自分が興味のある話題であれば、いくつか情報を聞き出せるようにすると、より質の

高いコミュニケーション活動となる。例えば、映画を観ることを楽しんだ、I enjoyed watching movies last night. I like E.T. very much.という答えが返ってきたとする。その後、「他には好きな映画はあるか。」「映画のジャンルはどのようなものが好きか。」など話題を広げて尋ねることができれば、話し手との間により濃密なコミュニケーション活動が生まれるのである。

(3)Step3 **Writing**

ワークシートの最後では、ライティング活動を行う。友達にインタビューをして聞き取った情報を基に、自分の意見を入れながら作文をする。慣れない1年生のなかには、聞き取った情報を文章にするだけでも精一杯の生徒も多いはずである。その場合は初めから「3文以上書く」という高い目標を設定しないほうが賢明である。まずは、1文書いてみよう、書けたら2文書いてみよう、などスモールステップの要領でやると、生徒のやる気を失わせることなく、活動に取り組みさせることができる。2・3年生では、ただ単に聞いた内容を書く、というだけでは十分なライティング活動とは言えない。自分で聞いた内容を書いた後、さらにその事柄について、自分の意見または、感想と理由まで書けるようにすることが重要である。

Step3 **W** 上の表をもとに友達が昨夜楽しんだことと、それに対する自分の意見(感想)とそう思う理由を書きましょう。

例: Takuya enjoyed watching TV last night. He watched "Legal High." The program starts at 10:00 p.m. I think he should record it and enjoy it the next day. Because he looks sleepy today.

[写真3] ライティング活動



ライティングは、個々の生徒の総合的な英語力に大きく左右される技能である。正しい文法理解と、既習の知識を活用できるかどうかにより、書ける文の量や内容に差が生じる。ライティングが苦手な生徒は、最初から書けるはずがない、とあきらめてしまう場合が多い。そのような生徒への手立てだが、まずは、聞き取った情報を正しい主語、述語から成る短文で書けるようにするところから始める。それから、時を表す表現や熟語の使い方、接続詞での文のつなぎ方など、細かい知識を増やしていくと良い。また、語彙力が不足

しているために満足な文章が書けない生徒には、購入した辞書や教科書の後ろに付いている辞書を引く習慣をつけさせる指導も必要である。

[写真4] コミュニケーション活動で聞き取ったメモと、それを基にしたライティング

聴く	音楽を聴く	聴くのが
聞く	listening music	exciting
聴いた	(listening music)	New song
聴く	sleeping	very good
見る	watching TV	very exciting
読む	Reading a book	interesting

Step3 **W** 上の表をもとに友達が昨夜楽しんだことと、それに対する自分の意見(感想)とそれを感じる理由を書きましょう。

例: Takuya enjoyed watching TV last night. He watched "Legal High." The program starts 10:00 p.m. I think he should record and enjoy it the next day. Because he looks sleepy today.

Siori enjoyed listening to music last night. She listened to Yui's song. She likes Yui. I'm going to try to listen to Yui's song. Because I always listen to winds music.

聞き取った情報を英語でメモする。

聞き取った情報を基に文章を書く。学習した知識を積極的に活用できるようにする。

まとめ

「聞く・話す・読む・書く」という4技能をバランスよく育成するためには、各技能を相互に関連させた活動を行うことが大切である。しかし、普段の授業内で、複数の技能を統合させながら活動を進めることは簡単なことではない。授業の場面ごとに、何の技能が用いられ、どの技能と統合させているかを意識しながら授業を進めていたかどうか、自身のこれまでの実践を振り返っても、決して十分であったとは言えない。本稿で紹介したワークシートの利点の1つは、4技能を統合した活動が手軽に行える点にある。また、1枚のワークシートにすべての技能が配置されており、ターゲット文を繰り返し学習することができる。よって、使用する時期としては、各ユニットのまとめとして行うのに適している。今後、本稿で紹介したワークシートを授業の中で実践しながら、更なる改良を加え、より良いものにしていきたい。

英語 中学校 「小中の円滑な接続の工夫」

学びの連続性を意識した授業

～サブテーマ～

中学校英語担当教師ができる小中連携

川口市立安行中学校 教諭 清水 瞳



ねらい

平成23年度から新小学校学習指導要領が全面実施となり、小学校5・6年生で外国語活動の授業を通して英語に慣れ親しんだ生徒が中学校に入学している。中学校学習指導要領解説（外国語編）においても、小学校での学習を踏まえて中学校における英語学習の円滑な導入を図ることや、小学校での外国語活動の実施状況を中学校側が十分に把握した上で指導計画を作成することの重要性が明記されている。本稿では小中の円滑な接続の工夫として、以下の二点について述べる。

- (1) 小学校・中学校で連携して行っている取り組み
- (2) 小中の学習内容の系統性を意識した中学校の授業実践

実践例

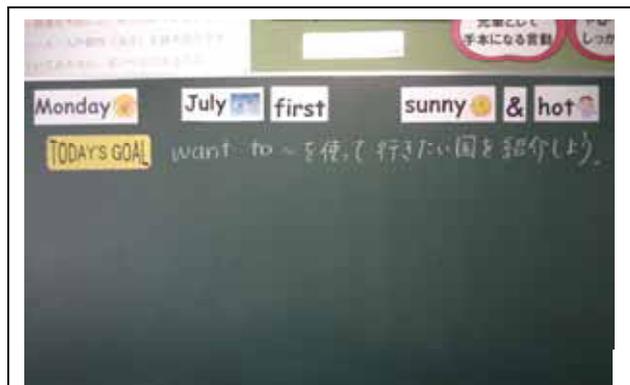
(1) 小学校・中学校で連携して行っている取り組み

授業の導入を統一

夏休みに行われた小中合同研修会（外国語部会）において、外国語活動の授業で使う「月・曜日・天気カード」を中学校で使用しているものと同じデザインで作成した。小学校と中学校で、授業の最初に「月・曜日・天気」を必ず尋ね、黒板にカードを貼ることで、授業の導入を統一し、中学校の授業に小学校とのギャップを感じずにスムーズに入れるようにしている。また、【Today's Goal】を毎回板書し、本時の目標（めあて）を明確にしてから授業を行うことも統一して実施している。



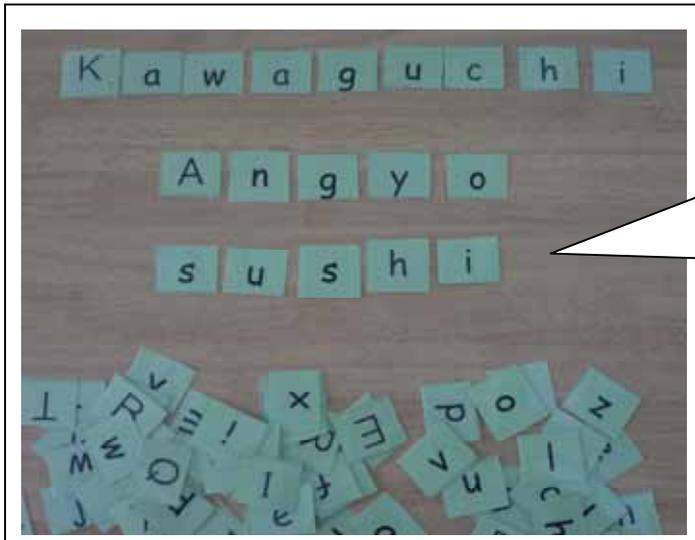
夏の小中合同研修会でカードを作成



授業の導入の流れを小中で統一

へボン式ローマ字を外国語活動で扱う

中学1年生の最初にアルファベットの英単語とへボン式ローマ字を同時に扱っているので、生徒の負担が多いように感じていた。そこで、へボン式ローマ字をカードを使い、ゲームを通して小学校5・6年生で扱うことにした。中学1年生は小学校とのギャップを感じたり、負担の大きさから英語嫌いにならないよう配慮する必要がある。そこで、夏休みに行われた小中合同研修会（外国語部会）において、へボン式ローマ字カードを使ってどのような活動ができるか、小学校教師と中学校英語担当教師で話し合い、効果的な活動を考え実施することにした。



ヘボン式ローマ字学習用カード

両面印刷で表が大文字、裏が小文字になっており、ヘボン式ローマ字でよく使うA、I、U、E、O、K、H、Tなどが多めに入っている。中学校でも使えるカードである。

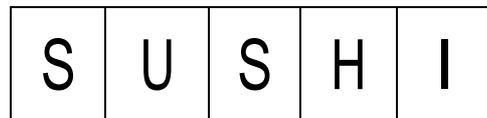
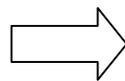
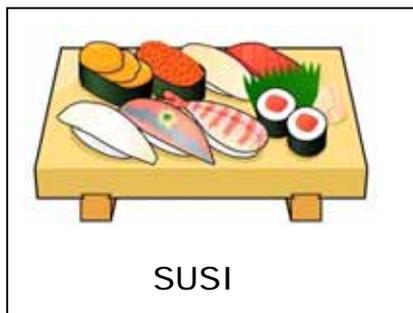


小中合同研修の様子

ヘボン式ローマ字カードを使った活動についてアイデアを出し合う外国語部会の先生たち

<活動例>

外国語活動のウォーム・アップで訓令式とヘボン式の違いをゲームを通して学習する。教師が示した絵（訓令式文字付き）を見て、グループ等でヘボン式にカードを並び替える。



このようなグループ活動だけでなく、全員分のカードを用意し、小5の終わりに自分の名前や担任の先生の名前などを扱い、小6の終わりに地名や駅名などを扱うことで学習内容を発展させることもできる。小学校でゲームを通してヘボン式ローマ字に十分に慣れ親しませることで、中学校では最初から書く活動を行っても生徒の負担が少なくなる。

また、今回の研修では小中の教員が集まって協議をしたことで、児童の学習意欲を喚起するゲームや児童の学習状況などもわかり、中学校側では今まで思いつかなかったような活動も児童の実態に合わせて考えることができた。

(2)小中の学習内容の系統性を意識した中学校の授業実践

外国語活動で使った絵や【Hi, friends!】(【英語ノート】)を再度提示

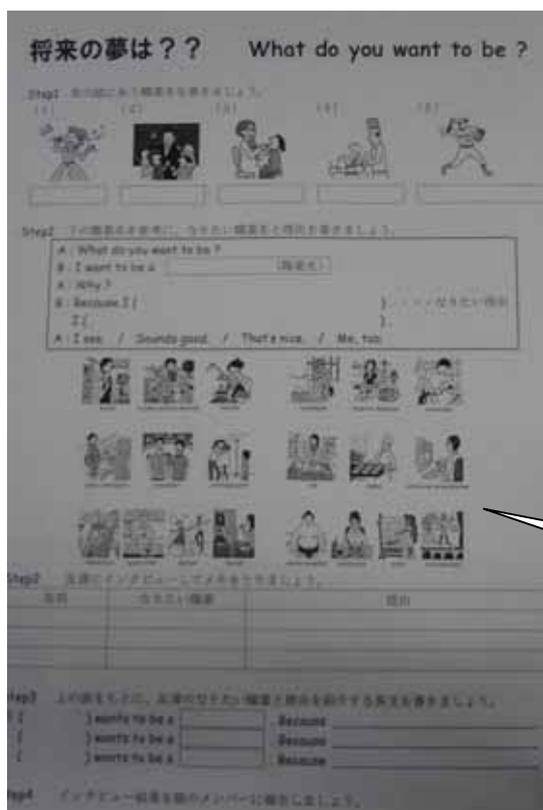
【Hi, friends!】(【英語ノート】)の絵や写真を既習事項として紹介し、小学校での学びを生かして授業を行う。



1年生 Unit4

What do you have for breakfast ?

【英語ノート】に載っている「世界の朝食クイズ」を大型テレビで提示。生徒からは「なつかしい」という声が聞こえ、外国語活動での学びを意識させながら中学校英語の授業に結びつけることができた。



2年生 Unit3 I want to go to ~.

【英語ノート】のページをコピーし、単語(国名と世界遺産)を復習。

2年生 Unit3

不定詞 I want to be a ~.

将来の夢を尋ね合う活動シートに、【英語ノート】の職業名のページを載せる。小学校で慣れ親しんだ単語なので、たくさん出てきてもスムーズに発音し、使うことができていた。

このように【Hi, friends!】(【英語ノート】)を中学校でも提示することで、生徒に外国語活動で学んだことが、中学校の英語学習につながっているのだという意識をもたせることができる。中学校英語担当教師としても常に小学校での学びを意識して授業準備ができるので、学習内容の系統性を意識することにもつながる。また、生徒は小学校での学習内容をよく覚えており、単語や表現の導入に使うと普段より興味をもって意欲的に授業に取り組むことができる。

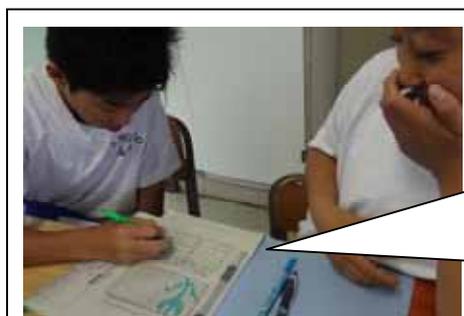
小学校での活動内容を把握した上での授業実践

特に中学校1年生は小学校と同じ題材を扱うことが多い。中学校英語担当教師が小学校での学習状況や活動内容を把握していないと、扱っていないものを既習事項として学習を進めてしまったり、小学校と同じレベルの活動をしてしまうこともある。小学校での児童の興味を喚起するゲームなどは大切にしながら、同じ題材でも活動内容を発展させることで、中学校は小学校での学習を土台としてより深く学習しているという意識を持たせたい。



1年生 Warm-up 3 アルファベット

単語のスペリングもALTの先生とゲーム感覚で楽しく学ぶ。スペリングを覚える活動は苦手意識をもちやすいため、楽しく、ギャップを感じさせずに取り組ませることで、英語嫌いにさせない。



1年生 Warm-up 5 数字

数字の学習は小学校でも扱っている内容なので、【Hi, friends!】と同じ活動ではなく、教師の言うアルファベットと数字を聞きとってマスを塗りつぶし、絵を完成させたり、ペアで数字を発音しながらできるゲームなどに発展させて行う。なるべくペアやグループワークを増やし、外国語活動の素地を生かす。



インタビュー活動

小学校で大切にしている会話の前後のあいさつ“Hello.”“See you.”を継続して言わせる。更に、中学校では相槌などの語彙を増やして取り組ませる。また、インタビューして終わりではなく、聞いた内容をまとめる等、複数の技能を統合した言語活動を行う。

その他にも、小学校で使っていたクラスルーム・イングリッシュを把握し、発展させて継続的に指導したり、小学校で歌った歌を把握し、生徒が興味をもちそうな別の歌を歌うなど、中学校英語担当教師が小学校の学習内容を把握した上で授業を行うことを意識している。

まとめ

小学校で外国語活動が導入されて数年経つが、小中連携においては特に中学校英語担当教師の意識改革が必要である。中学校側が小学校の学習内容を把握して授業実践することで、生徒も安心して授業に臨むことができ、小中のギャップを感じずに中学校英語科の学習に取り組むことができる。今後もさらに研究を深め、小学校の先生方とも協力しながら更なる連携を深めていきたい。

英語 中学校 「小中の円滑な接続の工夫」

指導法の継続性を意識した授業

～サブテーマ～

チャンツを活用して行う

パターン・プラクティス

川口市立幸並中学校 教諭 大野 健一



ねらい

新出文法を含む文（以下、ターゲット文と記す）が、導入後に行う言語活動において正しく使えなかったり、長期的に定着しなかったりする場合がある。また、外国語活動で身に付けた音声面を中心としたコミュニケーション能力の素地が、言語活動において効果的に生かされないこともある。その原因として、ターゲット文の理解と練習が十分ではない、外国語活動の指導法が中学校外国語科の授業で継続されていないことなどが挙げられる。

中学校学習指導要領解説（外国語編）には、指導計画の作成上の配慮事項として、「第1学年においては、特に小学校における外国語活動の内容や指導の実態等を十分に踏まえること」とあり、外国語活動と中学校外国語科の学習との円滑な接続の重要性が示されている。現在、外国語活動の授業では歌やチャンツなどを通して英語の音声面を中心とした学習が展開されている。本稿では、その指導法を生かして言語活動の前に実施する【チャンツを活用したパターン・プラクティス】を紹介したい。言語活動では、実際に言語を活用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動が重要であるが、同時にそれを支える言語材料について理解したり練習したりする活動も必要である。

実践例

ターゲット文のオーラル・イントロダクションや簡単な説明の後、すぐに言語活動に入ると、ターゲット文を正しくアウトプットできない生徒が多いことに気付く。特に英語を苦手と感じている生徒ほど、十分に理解できていない段階で言語活動に入ってしまう傾向がある。クラスメイト達と楽しそうに言語活動をしている時などは、おそらく理解できているはずだ、と教師が錯覚をおこしがちであるため、注意が必要である。

チャンツを活用したパターン・プラクティス

小学校の外国語活動では、音や音楽に合わせて英語を使用する活動が数多く実践されている。これらの活動に慣れ親しんでいる生徒の多くは、抵抗なくチャンツなど音を使った活動に取り組むことができる。小中の円滑な接続という観点からも、これらの活動はもっと注目されるべきではないか。チャンツはCDなどの音楽に合わせて行うものと、メトロノームなどのリズムに合わせて行うものなど、いくつかのパターンがある。

使用機材（一定のテンポが計れ、音が出るものを用いる。）



電子メトロノーム



リズムマシン

スピード

最初はテンポをゆっくりにし、ターゲット文に慣れさせる。徐々にスピードを上げ、発話スピードを早めていくとゲーム感覚で楽しめる。また、長いターゲット文などは、リズムに合わせて一呼吸でターゲット文を4～6回程度言わせることも効果的である。最初は息が持たずに2～3回しか言えないような生徒でも、練習次第では4～6回、もしくはそれ以上言えるようになる。この一呼吸トレーニングは特に英語が苦手な生徒には効果的であり、「英文を正しく言えた！」という達成感が得られるようである。

練習方法

<例> 動名詞を含むターゲット文で、enjoy (stop, finish～ing)の形を習得させる場合。

(1) 語句やターゲット文を黒板に貼る。

I enjoyed テニスをした。映画を観た。夕食を作った。など、下線部の部分のみ日本語で提示し、黒板に貼り付ける。下線部を英語に変え、リズムに乗せて2～3回行う。

(2) パワー・ポイントで語句やターゲット文を提示する。

語句やターゲット文のパワー・ポイントを作成し、リズムに合わせてスライドを変えていく。

(3) デジタル教科書を使う。

デジタル教科書の中のターゲット文を活用する。I enjoyed / play tennis などの表示を見ながら、リズムに合わせて正しい英文を作らせる。

(4) 「まじかるバナナ」方式

中級者から上級者には、リズムに乗せて文を自由に作らせるのも面白い。I enjoyed～のみ提示し、後に続く文章を自由に作らせる。意味をなしていない英文を作ったり、リズムに乗れずにつっかえたりしたほうが負けとなる。テンポが速くなってくるとゲーム感覚が生まれ、盛り上がる。

練習形態

(1) 一斉練習： クラス全体

(2) グループ練習： 一人ずつ例文*を作り、他のメンバーはその例文をリピートする。

(3) 列練習： 列ごとに例文を作る。他の生徒たちはその例文をリピートする。

(4) ペア練習： とんりの人と交互に例文を作る。相手の例文をリピートする。

*ここでの例文とは、ターゲット文の動詞や名詞の部分を変えた文のことを指す。

リズム

チャンツを行うためにはリズムが欠かせない。メトロノームは一定の速さのリズムでの練習が可能だが、活動がやや単調になりがちである。また、チャンツ用のCDはスピードの調整が不可能であるため、いつも決まったリズムしか使えない、などの問題点がある。最もお勧めしたいのが、楽器屋などで購入ができるリズムマシン(価格は5千円程度)である。初期費用はかかるが、様々なリズムが機械内にプログラムされているため、これを活用するとチャンツの幅が広がる。

まとめ

パターン・プラクティスというと機械的で単純な学習を想像しがちである。生徒も、つまらなそうに何となく口を動かして課題をこなしているだけというような理由から、別の活動を実施することもあるだろう。しかし、外国語活動で慣れ親しんでいるチャンツを活用することにより、生徒は安心して授業に臨むことができるだけでなく、中学校では小学校での学習を土台としてより深く学習しているということ意識しながら、中学校外国語科の学習に取り組むことができる。パターン・プラクティスを行う目的は、ただ単に言語材料を理解させたり、発話できるようにさせることだけではない。最終的な目的は、生徒がお互いの考えや気持ち等を伝えることができるような質の高い言語活動につなげ、4技能を総合的に活用できるコミュニケーション能力を育成することである。

外国語活動 小学校5年生「外国語活動における絵本の活用」

絵本から学ぼう！

～サブテーマ～

児童の興味を喚起する教材の活用を通して

川口市立新郷南小学校 教諭 堀 祥子



ねらい

今日、外国語活動の授業では、ゲーム・歌・チャンツ・コミュニケーション活動など様々な活動が行われているが、いずれも発信する動的な活動が多い。私は、じっくりと人の話を聞かせ、英語の「ことば」や「文化」について考えさせたり気付かせたりする活動も大切であると考え。また、高学年になると、外国語活動が難しいと感じている児童も多い。そこで、慣れ親しんだ語彙や表現が扱われている色が鮮やかな絵本を活用し、外国語活動に親しめるようにしていきたい。さらに、小学生は外国語学習に対して初歩的な段階なので、絵について質問したり、語彙や表現を繰り返し練習していきたい。

実践例

(1)【Hi, friends! 1】 Lesson 5 「What do you like?」

絵本「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?」

(Henry Holt & Company)

- ・この本は外国の絵本らしく、配色がとても鮮やかである。
- ・画家は『はらぺこあおむし』でも有名なエリック・カール氏である。
- ・児童も目にし、読んだことがあり、興味・関心を喚起することができる。

<活動例 1>

この本では、次々に色鮮やかな動物が登場する。はじめに、動物の名前や動物の色を英語で確認しながら読み聞かせる。

(会話例)

教師：「What's this?」

児童：「It's a bear.」

教師：「Good.」

教師：「What color?」

児童：「It's red.」

教師：「OK.」

<活動例 2>

次に、この単元の「What do you like?」を学習した後、本の中に登場した動物の中で好きなものを聞いたり、答えたりする活動を行う。

(会話例)

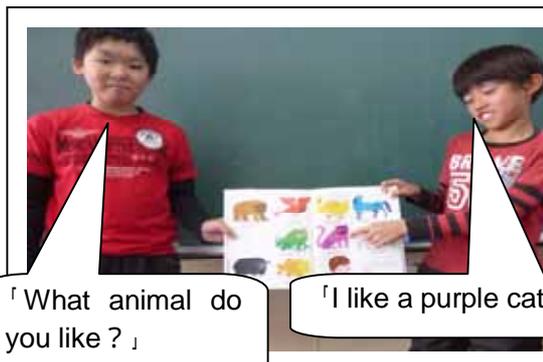
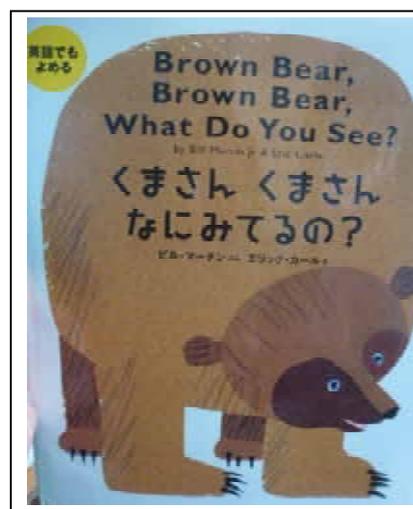
教師：「What do you like?」

児童：「I like a blue horse.」

教師：「Me, too.」

<活動例 3>

また、「What color do you like?」「What animal do you like?」のようなやりとりを行うこともできる。



(会話例)

教師：「I like a pink monkey. What animal do you like?」

児童：「I like a red bird.」

教師：「Great.」

<活動例 4>

さらに、本文に出てくる「What do you see?」「I see a ~.」を教師対児童、児童対児童のように交互に言うこともできる。児童同士の場合、グループごとに言わせても良い。

(会話例)

教師：「What do you see?」

児童A：「What do you see?」

児童：「I see a yellow duck.」

児童B：「I see a black sheep.」

児童：「What do you see?」

児童B：「What do you see?」

教師：「I see a yellow duck.」

児童A：「I see a black sheep.」

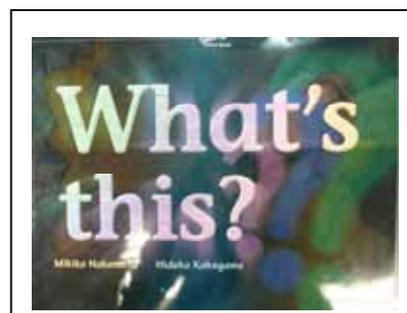
(2) [Hi, friends! 1] Lesson 7 'What's this?」

絵本 'What's this?」 (アプリコット)

この本の話は、いろいろな動物から見た一本の木が題材になっている。小さな動物はそれぞれ自分の見た範囲から実像を想像する。ある動物は自分の位置から判断し、ある動物は自分が見た季節から判断する。最後に人間だけが正しい全体像を知っているかのように発言する。しかし、人間でさえ、実際は木の地上に出ている上半分しか見ておらず、根の部分は見落としている。個々にはそれぞれの立場があり、ある意味では正しく、ある意味では間違えているということを考えることができる。

また、この本では、「What's this?」、「It's a ~.」という話形がくり返し出てくるので、児童は自然に反復練習することができる。

さらに、【Hi, friends! 1 Lesson 7】では、スリーヒントクイズを扱っている。1つのものに対し、できるだけ多くのヒントを考える。この本から多角的な見方を学び、学んだことを活用し、スリーヒントクイズに生かすことができる。



<児童が実際に作ったヒントの例>

words	NO.1 hint	NO.2 hint	NO.3 hint
apple	circle	red	fruit
panda	white&black	China	animal
school	children	pool	study
baseball	nine	ball	sport
chalk	color	write	blackboard
spaghetti	fork	noodle	Italy

まとめ

絵本を活用することで外国語活動に苦手意識をもっている児童も興味関心をもって活動に取り組んでいる。絵本を読み聞かせることによって、英語を聞くことに慣れ親しませるだけでなく、様々な活動に活用できる。

さらに、高学年では、絵本だけでなく、写真集や図鑑なども活用すると児童の知的好奇心を刺激することができる。例えば、オリンピックの写真集はスポーツの種類・出場チームの国名・競技人数・動作動詞などの語彙の導入に適している。今後活用していきたい。

外国語活動 小学校6年生 「評価カードの工夫」

次への意欲につながる評価

～サブテーマ～

評価カードを活用した学習評価の累積から
通知表・児童指導要録の総括へ

川口市立上青木南小学校 教諭 小笠原 舞



ねらい

外国語活動における学習評価においては、外国語活動の目標を踏まえて3つの観点と趣旨が示されている。

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気づき
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気づいている。

埼玉県小学校教育課程評価資料に、【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】については、「児童が十分に英語に慣れ親しんだ時点での姿を評価し、いくつかの単元を通して複数回設定することが望ましい」とある。【外国語への慣れ親しみ】については、「授業中の児童の行動観察によって評価することを基本とする。実際にその外国語を使っている（聞いている、言っている）場面をとらえて評価する」とある。【言語や文化に関する気づき】については、「行動や発言で見取ることが難しいため、振り返りカードを活用し児童が気づいた点を記入できる質問項目を設けておくとよい」とある。

実際に外国語活動の授業を行い、評価する時のポイントは、児童にどのような力がついたかを伝えること、次への意欲につながる評価に努めることが大切である。また、行動観察や振り返りカードを活用して評価を行い、1年間を通しての評価の累積は、通知表や児童指導要録に総括される。

実践例

(1) 振り返りカードについて

毎時間の授業の終わりに3分程度の時間を使い、自己評価カードに記入させる。振り返りカードは、本時のめあてについて、「進んで取り組んだか」を3段階で自己評価する欄と、本時のめあてについて「気づいたこと・わかったこと・感想」を書かせる欄がある。また積極的に手を挙げて発言したり、ゲームに参加して勝利したりした場合にシールを貼るスペースが設けてある。シールの10個目は好きなシールを選べるようにし、さらに児童の意欲を高めることができるよう工夫している。獲得したシールの数を児童の意欲を評価する一つの材料としている。



(2) 評価の方法について

- ・ 1時間の授業のねらい(めあて)や評価場面は1箇所に絞り、焦点化を図る。
- ・ 児童が振り返りを行った後、教師が本時のめあてについて評価を行う。

日	今日めあて	評価 (○で囲もう)	気づいたこと・わかったこと・感想
9/25	行きたい場所をインタビュー	○	英語は強弱があった。日本語は強弱がなかった。
10/2	行きたい場所をインタビュー	○	なつりにはエリザベス女王。水物の英語も、なつり。
10/9	道案内の言い方を学ぶ	○	コンビニは、外国にいろいろある。おはなすか。た。
10/23	オリジナルの町作り	○	自分のオリジナルの町を作った。

<言語や文化に関する気づき>
評価例

- ・ 国名の言い方では日本語と英語の発音の違いや似ているところに気付いた。
- ・ 友達が行きたい場所を尋ねる活動で、世界には多くの遺産があることに気付いた。

<コミュニケーションへの関心・意欲・態度>
評価例

- ・ 行きたい国を友達にインタビューする活動では、進んでALTや友達と関わっていた。
- ・ オリジナルの町を作り、積極的に目的地までの行き方を尋ねたり答えたりしていた。

<外国語への慣れ親しみ>
評価例

- ・ 行きたい場所を尋ねる表現を繰り返し使い、英語の音声やリズムに慣れ親しんだ。
- ・ 道案内では Where is ~? の表現を使い、場所を尋ねたり答えたりする英語に慣れ親しんだ。

児童の行動観察によって評価する慣れ親しみについては、教師は活動に参加せず、しっかりと見取る必要がある。活動がめあてに向かっていないときは活動をストップし、めあてに向かうよう修正を行う。

学期の終わりには、学期毎の目標に対しての振り返りを行う。児童の気づきや思ったことを把握し励ましの言葉をかけることで、次学期への意欲につなげることができる。

2学期の振り返り

Class(6-2) No.(5) Name()

行きたい場所をインタビューしよう。オリジナルの町を作ろう。

道案内の言い方を学ぼう。海外の町について知ろう。オリジナルの町を作ろう。

☆2学期の目標は達成できましたか?	☆楽しく活動できましたか?	☆新しい気づきがありましたか?
○	○	○

<印象に残った事・気づいたこと・わかったこと・思ったこと など>

私は友だちに行きたい国をきけたことがよかった。日本語と英語の国の発音が少しちがう所や、せんとくがうなどをはけんできました。数字の書き方も、たくさんおぼえられたので、すごくおもしろかった。なつりやこの時も、楽しかったです。

(3) 通知表・児童指導要録の記入について

通知表は、学期毎に1つの観点について記入し、年間で3観点を記入している。学年末には要録への記録もスムーズに行うことができる。

通知表(6年)

学期	一学期	二学期
6年	Can you? I can...の文を使い、行きたい場所をインタビューし、国名の言い方を伝える表現に慣れ親しんだ。	行きたい場所をインタビューし、国名の言い方を伝える表現に慣れ親しんだ。

児童指導要録

外国語活動の記録	5	6
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	名前をきいたり尋ねたりする言い方を覚え、楽しくいろいろな人と交流した。	
外国語への慣れ親しみ	曜日や天気、その時の気候を答える表現に慣れ親しんだ。	Can you? I can...の文を使い、行きたい場所をインタビューし、国名の言い方を伝える表現に慣れ親しんだ。
言語や文化に関する気づき	What's this? のクイズを考へ、日本語と英語の発音の違いに気付いた。	行きたい場所をインタビューし、国名の日本語の発音の違いに気付いた。

まとめ

児童は自己評価を行うことで外国語活動を通して身に付けた事や活動の中で気づいたこと、どのような学習をしてきたのかを振り返ることができた。振り返りカードに教師のコメントを入れる等、児童の次への意欲につなげる評価について今後更に研究していきたい。

バックナンバーもぜひご活用ください

国語

第1集(平成19年3月)

- 事例1 「音読・朗読・群読で“読む力”を向上！」
- 事例2 「小学校のことを調べてまとめ、発信しよう！」
- 事例3 「さまざまな課題作文を、条件に注意して書く力をつけよう！」
- 事例4 「暗唱を中心に音読の力をつけよう！」

第2集(平成20年3月)

- 事例1 「小学校で一番心に残ったことを友達や家族に伝えよう」
～聞き手に伝わるスピーチ指導の工夫～
- 事例2 「言葉遊びを楽しもう！」 ～言葉遊びを作って楽しむヒント～
- 事例3 「作者の意図を理解して「故郷」を読む」
～論理的に文章を読む力」を育むために
- 事例4 「修学旅行の句会を開こう！」 ～修学旅行の俳句を使っの相互評価～

第3集(平成21年3月)

- 事例1 相手や場を考えて言葉遣いを考えよう
～使おう敬語、高学年らしく！～
- 事例2 自分の力で読もう！「海の命」～自分で読み進める・考えを持つワークシート学習～
- 事例3 わかりやすく、正確に伝える話し方を学ぼう！
～話し言葉の基礎学習（わかりやすく、
正確に伝えるための話の組み立て方について）～
- 事例4 短歌に込められた世界を味わおう！ ～短歌の評論文を書く～

第4集(平成22年3月)

- 事例1 お勧めの本を紹介しよう、読みたい本を見つけよう
～本の紹介、めざせ、発表名人！聞き名人！～
- 事例2 登場人物の気持ちを読み取り表現しよう
～心情曲線を使って表現し伝え合う学習～
- 事例3 ゲームを通して品詞に慣れよう！ ～文法を表現に生かすために～
- 事例4 広告の工夫を分析してみよう ～メディアの「落とし穴」にご用心！～

第5集(平成23年3月)

- 事例1 「どうぶつの赤ちゃん」ずかんをつくろう
～主体的に取り組む学習活動を目指して～
- 事例2 「何に見えるかなゲーム」をしよう！ ～めざせ、発表名人！聞き名人！～
- 事例3 百人一首を楽しもう ～百人一首で音読の楽しさに触れる～
- 事例4 一文字の持つ力に気付こう！ ～読解に役立てる文法～

第6集(平成24年3月)

- 事例1 「ようすをあらわすことば」の言葉貯金をしよう！
～『言語活動の充実』を日常生活にも広げて～
- 事例2 読み取ったこと、感じたことを自分の言葉で表現しよう！
～「書くこと」が好きな児童の育成を目指して～
- 事例3 PISAの問題に挑戦！ ～情報を読み取り、論理的に表現する
- 事例4 聞き取りメモの達人になろう ～メモの取り方を工夫しよう～

第7集(平成25年3月)

- 事例1 「交流」しながら楽しく学ぼう！
～書く活動を深める交流活動～
- 事例2 「アップとルーズで伝える」言語活動を大切にした授業！
～言葉があふれる学級作りを目指して～
- 事例3 古典の心を今につなげよう ～古典と今をつなげて「書く」～
- 事例4 国語科における板書の工夫 ～わかりやすい板書にするには～

社会

第1集(平成19年3月)

- 事例1 「子どもの学習意欲を引き出す資料の活用法」
- 事例2 「わたしたちのまちや都道府県の名前・特徴・位置・形を地図帳やカルタを使って楽しく学ぼう！」
- 事例3 「基礎基本が定着し、児童の興味関心を高めるための資料活用法」
- 事例4 「生徒の興味・関心を高め学力を向上させるための授業の工夫」
- 事例5 「人物名、基礎基本の用語をカルタ等を通じて楽しく学ぼう！」

第2集(平成20年3月)

- 事例1 「ぐんぐん進む調べ学習！」 ~ アドバイスを生かし、わかる学習へ ~
- 事例2 「自分たちで学習問題をつくろう！」 ~ アドバイスを生かし、わかる学習へ ~
- 事例3 「見て・さわってわかる授業！」 ~ アドバイスを生かし、わかる学習へ ~
- 事例4 「都道府県テストに挑戦！」 ~ 関連付けて覚える 反復して覚える ~
- 事例5 「身近な地域の歴史学習の充実のために」
~ わが町・川口を歴史学習に生かそう ~

第3集(平成21年3月)

- 事例1 興味関心を高めてスキルアップ！
~ フラッシュカードやクイズで都道府県・国名を知ろう ~
- 事例2 興味関心を高めてスキルアップ ~ スリーヒントで考えよう ~
- 事例3 学力と学習意欲の向上のために ~ 学力向上の取り組みと実物資料の活用 ~
- 事例4 言語活動で思考力を高める学習 ~ キーワードやカードの利用を通して ~

第4集(平成22年3月)

- 事例1 興味関心を高めてスキルアップ！
~ フラッシュカードや体を使って方位・地図記号を覚えよう ~
- 事例2 繰り返し学習しながら豊富な知識の獲得を
- 事例3 歴史資料を理解する力をつけるために
~ 文章資料を身近なものにする取り組み例 ~
- 事例4 年表を活用して歴史の流れをつかもう！

第5集(平成23年3月)

- 事例1 楽しく自然に繰り返し47都道府県を効果的に習得しよう
~ 「楽しく」「自然に」「繰り返し」で都道府県を覚える授業の工夫 ~
- 事例2 興味関心を高め、進んで児童が考える授業を目指して
~ 大型テレビを活用した授業実践 ~
- 事例3 主な国々の位置をクイズ形式で再チェック！
~ 「国旗&国歌&童話と、地図帳を併用した班対抗競技」 ~
- 事例4 世界地図を読む基礎的な力をつけよう ~ スポンジボールを活用した実践 ~

第6集(平成24年3月)

- 事例1 教科書を効果的に活用して、社会科嫌いをなくそう
~ 教科書かんたん活用 3つの方法 ~
- 事例2 楽しく、くり返して学習し、知識を増やそう！
~ 学ぶ意欲を高める授業の導入の工夫 ~
- 事例3 情報通信ネットワークの活用
~ インターネットビデオ電話の授業実践と可能性 ~
- 事例4 歴史上の先人たちを賞賛し、感謝状を贈ろう！
~ ライフスキル(生きる力&技)学習内容を活用した実践 ~

第7集(平成25年3月)

- 事例1 学習の過程が見える板書計画
~ 資料から何がわかり、どんなことを考えたのかな ~
- 事例2 関心・意欲を高める学習指導の工夫
~ 遊びながら、触れながら ~
- 事例3 世の中の出来事に興味を持って公民カルタをつくろう！
~ ニュースに興味関心を持たせる授業 ~
- 事例4 地域広報紙の活用！
~ 住民自治を考えさせる資料の活用 ~

算数・数学

第1集(平成19年3月)

- 事例1 「算数セットで楽しく練習しよう！」
- 事例2 「授業の“理解度up”を図り、基礎基本を身に付ける」
- 事例3 「三平方の定理の導入」

第2集(平成20年3月)

- 事例1 「名探偵!九九のひみつを見つけて！」
～数の並び方からきまりを見つけて楽しく学ぶ～
- 事例2 「学ぶ楽しさが味わえる算数授業の工夫(タングラムを活用して)」
～考える楽しさが味わえる教材～
- 事例3 「トランプゲームで楽しく学ぼう！」
～トランプを使った正負の数の加法・減法の指導～
- 事例4 「小学校・中学校の関連」～小学校の学習内容を理解し、指導に生かそう～

第3集(平成21年3月)

- 事例1 少数の世界を広げよう ～割り切れない商のひみつを見つめよう～
- 事例2 学ぶ楽しさが味わえる算数授業の工夫(分数多角形を教材にして)
～考える楽しさが味わえる教材～
- 事例3 トランプゲームで楽しく学ぼう!PART2
～トランプを使った正負の数の下方・減法の指導～
- 事例4 基礎・基本を身につけよう!～夏休みを利用した補充学習～

第4集(平成22年3月)

- 事例1 効果的な掲示物の工夫 ～学習意欲を喚起する掲示物～
- 事例2 24このおはじきをならべよう
～多様な発想を生かし、学習を発展させる力を育てる～
- 事例3 証明問題に強くなろう! ～パターン化による証明問題の指導～
- 事例4 基礎・基本の確実な定着をはかろう!
～入試予想問題の小テストの実施～

第5集(平成23年3月)

- 事例1 ノート指導の工夫 ～今日からできるノート指導～
- 事例2 比較検討場面の指導
～3年生「2位数×2位数」の比較検討場面の指導をとおして～
- 事例3 個に応じた学習支援の実施 ～学び直しの場から学習意欲の向上へ～
- 事例4 計算力の向上と学習習慣の定着を図る
～数学計算コンテストと家庭学習帳の取り組み～

第6集(平成24年3月)

- 事例1 児童の「表現力」が高まる授業を目指して
～「表現力とは何か」をとらえた5年「平均」の授業づくり～
- 事例2 教えて考えさせる授業展開の工夫 ～学習内容の確実な定着に向けて～
- 事例3 個に応じた学習指導の工夫
～一人一人の習熟度に応じたワークシートの活用～
- 事例4 数学の授業における言語活動について
～教師の適切な一言で言語活動の充実した授業に～

第7集(平成25年3月)

- 事例1 算数科における「思考力・判断力・表現力の向上」を目指して
～数直線図の効果的な活用を通じて～
- 事例2 算数科における板書の工夫 ～よい板書からよいノートへ～
- 事例3 3つの達成目標「計算」の力を高める指導の工夫
～基礎・基本の確実な定着に向けて～
- 事例4 大型テレビの効果的な活用法
～実物投影機やパソコン、SDカードを用いて～

理科

第1集(平成19年3月)

- 事例1 「一人一人が実感でき、感動できる観察活動のあり方」
- 事例2 「学校は、ふしぎ？ワクワク！小さな科学館」
- 事例3 「星や太陽の動きをデジタル教材でわかりやすく学ぼう！」

第2集(平成20年3月)

- 事例1 「理科の力が身につくワークシート」
～ワークシートを活用し、自然の事物・現象に興味・関心を高め、
問題解決の力や科学的な見方、考え方を身につけさせよう！～
- 事例2 「『理科の達人』になる『理科の達人』をふやす」
～基礎・基本の定着と学力向上の実現～
- 事例3 「デジタル教材でわかりやすく学ぼう！PART2」
～デジタル教材の効果的な活用による授業の展開～

第3集(平成21年3月)

- 事例1 植物っておもしろいな！
～身近な植物を観察し、自然の事物・現象に対する興味・関心を高めよう！～
- 事例2 進んで取り組み、技能が定着するワークシート！
- 事例3 理科室の掲示物から、情報発信！
～自ら進んで学べる教育環境の工夫～
- 事例4 計算があってもこわくないワークシートで段階的に理解しよう！
～計算のつまずきに配慮した湿度計算演習の授業～

第4集(平成22年3月)

- 事例1 言語活動の充実を図るために
～予想をたてたり、自分の考えをまとめる工夫～
- 事例2 手づくり教材のすすめ！
～身近な素材を使った教材づくり～
- 事例3 デジカメを使った興味をもたせる理科授業！
～教室のテレビを有効活用した授業展開～
- 事例4 オームの法則を調べる実験器具の工夫
～豆電球のように、セメント抵抗に電流が流れている様子が見える実験器具の工夫～

第5集(平成23年3月)

- 事例1 理科室の環境づくりの工夫
～理科好きな児童を育てる理科室の環境づくり～
- 事例2 実感を伴った理解を図るための教材の工夫
～電流による発熱量を視覚的にとらえる工夫～
- 事例3 簡単なモーターづくり
～整流子のない簡単なモーターを製作する～
- 事例4 目で見て発見！電流と磁界の世界を探ろう
～マグチップを使った磁界の様子と電流磁界観察器を利用した磁界の向き～

第6集(平成24年3月)

- 事例1 パターン化で思考力、表現力がアップするノート指導の工夫
～自ら学ぶ意欲を育てるノート指導～
- 事例2 わかる授業・確かな学力へ向けて
～大型テレビを活用した授業づくり～
- 事例3 目で見て感じて理解を深める！
～印象に残る演示実験～
- 事例4 生徒の視覚に訴える授業の工夫
～視聴覚機器を活用した授業の工夫～

第7集(平成25年3月)

- 事例1 これで論理的思考力をつける！『理科ノートのとり方』
～小学校で伝えたい理科ノート指導の基本術～
- 事例2 理科における板書の工夫
～板書のパターン化とノートの一体化～
- 事例3 「書いて話そう」これで理科の力がUPする！
～表現力・思考力を伸ばすノート指導～
- 事例4 マグネット板を作ろう！
～板書の様々な場面でのマグネット板づくり～

英語

第1集(平成19年3月)

- 事例1 「川口市英単語検定に挑戦！」
「英語詩で今の自分を表現しよう！」

第2集(平成20年3月)

- 事例1 「英語の学習どこでつまづいた？わからない箇所をやりなおそう！」
～「つまづき発見・克服シート」の活用～

第3集(平成21年3月)

- 事例1 「Waku Waku Writing」
～書くことを通じたコミュニケーション力の向上を目指して～

第4集(平成22年3月)

- 事例1 基本的英単語を確実に覚えよう！
～川口市英単語検定の活用～

第5集(平成23年3月)

- 事例1 「スーパーインプット」で語順を正しく覚えよう！

第6集(平成24年3月)

- 事例1 「話して、書いて、身につける」 ～導入時に使えるダイアログ集～

第7集(平成25年3月)

- 事例1 “おんどくシート Level Up de Reading”で英文を完全マスター！！
～より効果的な教科書本文の活用について～
- 事例2 学習内容を明確にするための3段階板書法
～見通しと振り返りのある板書を目指して～
- 事例3 ICTを活用した授業改革
～ICT、授業のいつ、どこで、どう使う？～

平成25年度 川口市児童生徒学力向上推進委員名簿

委員長	川口市教育局学校教育部	部長	柴田 宏之	
副委員長	川口市立十二月田中学校	校長	春山 正実	
	川口市立元郷南小学校	教頭	石川 庸子	
委員	川口市立新郷小学校	教諭	平野 裕子	国語
	川口市立鳩ヶ谷小学校	教諭	池田 仁美	国語
	川口市立在家中学校	教諭	高橋千恵美	国語
	川口市立安行中学校	教諭	鈴木 玲	国語
	川口市立青木中央小学校	教諭	石井 玲子	社会
	川口市立元郷小学校	教諭	佐野 純也	社会
	川口市立西中学校	教諭	橋本 武	社会
	川口市立幸並中学校	教諭	佐藤 昌幸	社会
	川口市立柳崎小学校	教諭	酒寄 誠	算数・数学
	川口市立元郷南小学校	教諭	伊藤 弥生	算数・数学
	川口市立南中学校	教諭	飯塚 稔	算数・数学
	川口市立芝東中学校	教諭	中嶋 康雄	算数・数学
	川口市立本町小学校	教諭	阿久沢 透	理科
	川口市立安行東中学校	教諭	武井 信義	理科
	川口市立青木中学校	教諭	中井 弘子	理科
	川口市立幸並中学校	教諭	長島多絵子	理科
	川口市立上青木南小学校	教諭	小笠原 舞	外国語活動・外国語
	川口市立新郷南小学校	教諭	堀 祥子	外国語活動・外国語
	川口市立幸並中学校	教諭	大野 健一	外国語活動・外国語
	川口市立安行中学校	教諭	清水 瞳	外国語活動・外国語

教育局

川口市教育局学校教育部長	柴田 宏之
川口市教育局学校教育部次長兼指導課長	茂呂 修平
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼指導係長	大竹 伸明
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼教育研究所副所長	菅原 京子
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	坂井 知子(国語科担当)
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	岡田 大助(社会科担当)
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	沓澤 亨司(算数・数学科担当)
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	小川 敏明(理科担当)
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	荻上 晃司(外国語活動・外国語科担当)

